

StorageWorks by Compaq

AIT 35GBオートローダー
リファレンス ガイド

製品番号: 274866-192

第2版 (2002年6月)

このガイドでは、*StorageWorks*™ AIT 35GBオートローダーのインストール手順、操作、およびトラブルシューティングの手順について説明します。

COMPAQ

© 2002 Compaq Information Technologies Group, L.P.
© 2002 コンパックコンピュータ株式会社

Compaq、CompaqロゴおよびStorageWorksは、Compaq Information Technologies Group, L.P.の商標です。本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。コンパック製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

AIT 35GBオートローダー リファレンス ガイド
第2版（2002年6月）
製品番号: 274866-192

目次

このガイドについて	
表記上の規則	vii
本文中の記号	vii
装置の記号	viii
ラックに関する注意	ix
コンパックのWebサイト	ix
1 はじめに	
機能	1-1
正面および背面図	1-2
DIPスイッチ	1-3
SCSIケーブルおよびターミネータの要件	1-3
SCSIケーブル	1-3
SCSIケーブルの長さ	1-4
SCSIバスについて	1-4
2 インストール	
開梱	2-1
オートローダーのインストール	2-2
テーブルトップへのインストール	2-2
ラックへのインストール	2-2
オートローダーの準備	2-3
輸送用ネジの取り外し	2-6
ホストコンピュータへの接続	2-7
電源ケーブルの接続	2-8
オートローダーのデイジーチェーン接続	2-9
シングルエンドモード	2-9
3 概要およびセットアップ	
コントロールパネル	3-1
コントロールパネルの使用	3-1
コントロールボタン	3-1
フロントパネルのボタンの無効化	3-2
ステータスディスプレイの表示	3-3
ステータスディスプレイメッセージ	3-3
AITメディアタイプ	3-3
カセットの位置	3-3
AITドライブの状態	3-3
ピッカー	3-4

スロット番号の割り当て	3-4
メインメニュー	3-5
初期セットアップ	3-6
オートローダーの電源投入	3-6
日時の設定	3-7
SCSI IDの設定	3-8
ネットワークへの接続	3-9
オートローダーのネットワーク設定	3-9
ネットワーク ケーブルの接続	3-11
ブラウザからのオートローダーへのアクセス	3-11
パスワードの設定または変更	3-12
その他のコンフィギュレーション設定	3-12
寿命警告表示の無効化	3-12
LCDパネルの輝度の調節	3-13
シーケンシャルモード	3-13
アンロードの継続	3-13
オートロードモード	3-14
オートローダーおよびドライブの情報の表示	3-15
ディザスタリカバリモード	3-15
システムのシャットダウン	3-16
4 カセットの管理	
カセットの取り扱いと保管	4-1
カセットの準備	4-1
カセットの挿入	4-2
カセットの取り出し	4-3
カセットの移動	4-4
5 管理メニューの使用	
注意事項	5-1
ブラウザからのオートローダーへのアクセス	5-1
オートローダーの管理メニュー	5-2
メニュー項目	5-3
[System Configuration]メニュー	5-3
[Maintenance]メニュー	5-9
[Information]メニュー	5-16
A 規定に関するご注意	
各国別勧告	A-1
Federal Communications Commission Notice	A-1
Class A Equipment	A-1
Class B Equipment	A-2
Modifications	A-2
Cables	A-2
Canadian Notice (Avis Canadien)	A-3
Class A Equipment	A-3
Class B Equipment	A-3
European Union Notice	A-3
Taiwanese Notice	A-4

B 静電気対策	
アースの方法	B-2
C 仕様	
物理仕様	C-1
電源仕様	C-1
環境仕様	C-1
外部接続	C-1
D メンテナンスおよびトラブルシューティング	
AITドライブのクリーニング	D-1
クリーニング カセットの挿入	D-1
AITドライブへのクリーニング カセットの移動	D-1
トラブルシューティング	D-2
警告	D-2
エラー コード	D-3
エラー コード83	D-3
その他のすべてのエラー コード	D-3
オートローダーが正しく動作しない	D-3
オートローダーとホスト コンピュータが通信を行わない	D-3
アプリケーションおよびオートローダーが正しく動作しているにもかかわらず、 データの書き込みまたは読み取りができない	D-4
カセットを取り出すことができない	D-4
パスワードを忘れた場合	D-5

索引

このガイドについて

表記上の規則

このガイドでは、表1の表記規則を採用しています。

表1: 表記上の規則

項目	規則
キー名	太字で表記します
メニュー アイテム、ボタン名、 ダイアログ ボックス名	[]で囲んで表記します
ファイル名	イタリック体で表記します
ユーザ入力、コマンド名、システム応答 (出力およびメッセージ)	Monospaceフォントで表記します コマンド名は、大文字と小文字を区別しない限り、 すべて大文字で表記します
変数	イタリック体のMonospaceフォントで表記します
Webサイト アドレス	Arialフォントで表記します (http://www.compaq.com/)

本文中の記号

本文中の以下の記号の意味を示します。



警告: その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがある警告事項を表します。

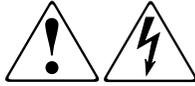


注意: その指示に従わないと、装置の損傷やデータの消失を引き起こす恐れがある注意事項を表します。

重要: 詳しい説明や具体的な手順を示します。

注: 解説、補足または役に立つ情報を示します。

装置の記号



装置の表面または部分で、高電圧が発生する可能性があることを示します。カバーの部品の修理は専門の技術者にご依頼ください。

警告: 感電を防止するために、このカバーを開けないようにしてください。



これらの記号が貼付されたRJ-45ソケットはネットワーク インタフェース接続を示します。

警告: 感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話または電気通信用のコネクタをこのソケットに接続しないようにしてください。



装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触れるとやけどをする場合があります。

警告: 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。



電源やシステムにこれらの記号が付いている場合、装置の電源が複数あることを示します。

警告: 感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。



左のマークの付いた製品および機器は、1人で安全に取り扱うことができる重量を超えていることを示しています。

警告: けがや装置の損傷を防ぐために、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

ラックに関する注意



警告: けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- ラックの水平脚を床まで延ばしてください。
 - ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください。
 - 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
 - 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
 - ラック コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。一度に複数のラック コンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。
-

コンパックのWebサイト

コンパックのWebサイトでは、最新のドライバに関する製品情報を提供しています。コンパックのWebサイト <http://www.compaq.com/storage/> (英語) にアクセスするには、インターネットにログインする必要があります。このWebサイトから、適切な製品またはソリューションを選択してください。

はじめに

StorageWorks™ AIT 35GBオートローダーには、AIT (Advanced Intelligent Tape) ドライブが内蔵されています。このユニットは、サーバに接続して、サーバとともに使用できます。

機能

AIT 35GBオートローダーの機能を次に示します。

表1-1: AIT 35GBオートローダーの機能

機能	説明
カセットボリューム	オートローダーは最大8本のAIT 35GBカセットを収容可能
ストレージ容量	280GB (ネイティブ) または560GB (2:1圧縮)
リモート制御	ブラウザを使用して、個々の設定を行うことが可能。また、ブラウザを使用して、オートローダーおよびメンテナンスの情報を表示することも可能
Wide LVD SCSI準拠	オートローダーはWide LVD SCSIデバイス
ラックマウント	ラックマウント用キットを使用して、オートローダーをコンパクト製ラックにインストール可能
テーブルトップ	オートローダーは、テーブルトップ構成で使用可能
サポートされるオペレーティングシステム	オートローダーは、次のオペレーティングシステムをサポート <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows 2000 • Microsoft Windows NT Server 4.0 • NetWare • Tru64 UNIX • OpenVMS • Linux
サポートされるブラウザ	オートローダーは、次のブラウザをサポート <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5.01以降 • Netscape Communicator 4.7以降

正面および背面図

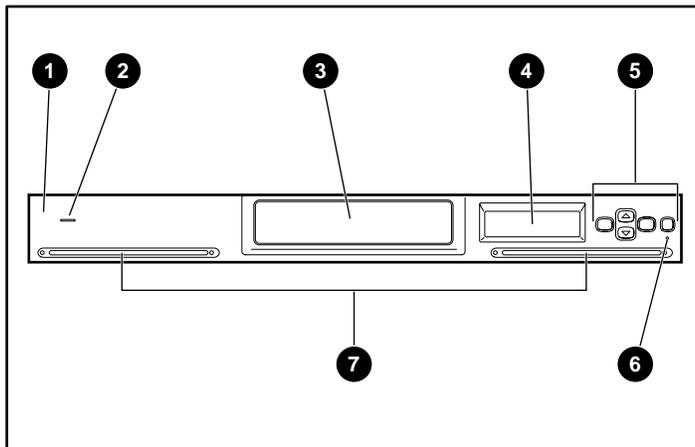


図1-1: オートローダーの正面図

- | | | | |
|---|----------------|---|-----------|
| ① | フロントパネル | ⑤ | コントロールボタン |
| ② | 電源インジケータ | ⑥ | エラーLED |
| ③ | カセットアクセスドア | ⑦ | 通気孔 |
| ④ | 液晶ディスプレイ (LCD) | | |

重要: カセットアクセスドアは、カセットのロードまたは取り出しの際に自動的に開きます。カセットアクセスドアが開いている間は、オートローダーは動作しません。

重要: オートローダーの正面または背面の通気孔をふさがないでください。

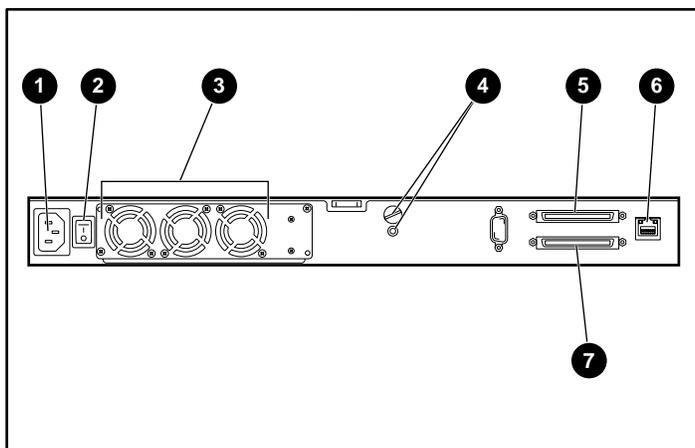


図1-2: オートローダーの背面図

- | | | | |
|---|----------|---|-----------|
| ① | AC電源コネクタ | ⑤ | SCSIコネクタ1 |
| ② | 電源スイッチ | ⑥ | LANコネクタ |
| ③ | ファンユニット | ⑦ | SCSIコネクタ2 |
| ④ | 輸送用ネジの位置 | | |

DIPスイッチ

DIPスイッチは、オートローダーの底面に配置されています。

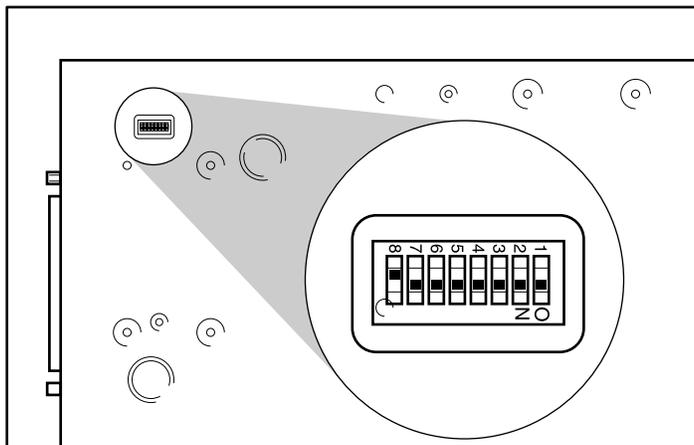


図1-3: オートローダーの底面にあるDIPスイッチ

注: SCSIターミネータの電源は、オートローダーではなく、ホストSCSIアダプタから供給されるようにしなければなりません。

表1-2: スイッチの設定

スイッチ	設定	説明
1~7	ON	予約済 (デフォルトはON)
8	OFF	SCSIターミネータの電源 (デフォルトはOFF)

DIPスイッチ8は、SCSIターミネータの電源が、オートローダから供給されるか、ホストから供給されるかを決定します (複数のSCSIデバイスが接続されている場合)。

SCSIケーブルおよびターミネータの要件

SCSIシステムは、次のコンポーネントにより構成されます。

- **イニシエータ** - コマンドのイニシエータ プログラムとして動作するホスト コンピュータ システムです。このシステムは、アプリケーション ソフトウェア、オペレーティング システム、デバイスドライバ、およびSCSIアダプタ カードにより構成されます。
- **バス** - SCSIケーブルを、SCSIアダプタ カード、オートローダー、およびその他のデバイスに接続することにより、コマンドを転送するためのバス (またはバス) が作成されます。
- **ターゲット** - オートローダーおよびAITドライブは、ホスト コンピュータからコマンドを受信する周辺デバイス (またはターゲット) です。Wide SCSIバスには、最大16台のデバイス (ホスト コンピュータを含む) を接続できます。また、Narrow SCSIバスには、最大8台のデバイスを接続できます。

SCSIケーブル

SCSI-3の仕様に準拠したUltra Wide LVD SCSIケーブルを使用してください。

SCSIケーブルの長さ

LVD (低電圧ディファレンシャル) SCSIでは、ホスト コンピュータからSCSIケーブルの端にあるターミネータまでのLVD SCSIケーブルの合計の長さ (内部および外部) は、12m以下でなければなりません。

重要: オートローダーの内部ケーブルの長さは2mです。

SCSIバスについて

SCSIバスを使用してオートローダーをセットアップする場合、次の注意事項に従ってください。

LVD SCSI

オートローダーはLVD SCSIデバイスです。SCSIバス上でオートローダーに接続されるSCSIデバイスは、すべてLVD SCSIデバイスでなければなりません。

Wide SCSI

オートローダーのインタフェースはWide SCSIです。オートローダーをNarrow SCSIバスに接続するには、50-68ピンLVD SCSIアダプタを使用してください。また、未使用のすべてのデータ線がアダプタにより終端されていることも確認してください。

SCSI ID

SCSIバス上の各デバイスに、固有のSCSI IDを設定してください。ホスト コンピュータは、これらのSCSI IDを使用してデバイスを区別します。SCSI IDは、複数のデバイスがホスト コンピュータと通信している場合に、通信の優先順位を付けるために使用されます。ID番号が小さければ、優先順位は低くなります。

SCSIバスの終端

オートローダーがSCSIバス上の終端の物理デバイスとなる場合、未使用のSCSIコネクタにターミネータを接続して、SCSIバスを終端させなければなりません。

この章では、オートローダーのインストールと構成、ホストコンピュータへの接続、およびオートローダーの電源投入の一般的な手順について説明します。

開梱

1. 箱に印刷されている指示に従って、オートローダーを取り出します。
2. マニュアルやテープなどの同梱品を取り出します。
3. オートローダーの背面にあるオレンジ色の輸送用ネジを、上の穴（輸送用位置）から取り外して①②、下の穴（動作用位置）に取り付けます③。

重要: オートローダーを移動する場合は、オレンジ色の輸送用ネジを輸送用位置に戻してください。輸送用位置にネジを取り付けることにより、ロボット機構がロックされ、損傷が防止されます。

重要: 輸送用ネジを上穴に取り付けた状態で、オートローダーを動作させないでください。輸送用ネジを動作用位置（下の穴）に移動してから、動作させてください。

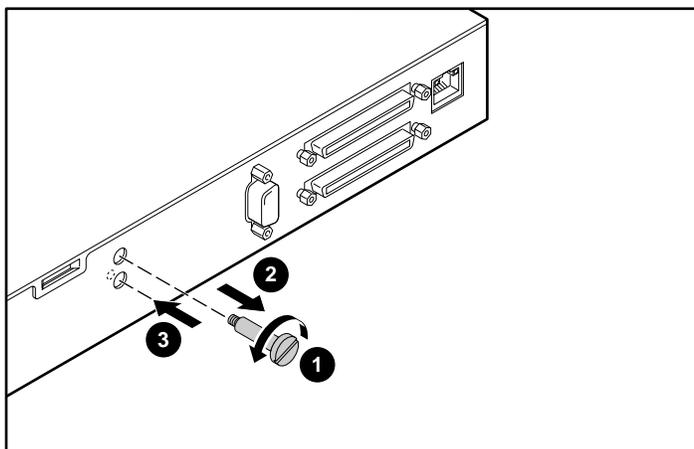


図2-1: オレンジ色の輸送用ネジ

オートローダーのインストール

Compaq AIT 35GBオートローダーは、次の2種類のインストールが可能です。

- テーブルトップへのインストール
- ラックへのインストール

どちらのインストールを行う場合でも、作業領域に静電気放電 (ESD) が発生する可能性のある条件が存在しないことを確認してから開始してください。詳細については、「B 静電気対策」を参照してください。

テーブルトップへのインストール

オートローダーをテーブルトップにインストールする場合は、次に注意してください。

- 表面が平らで水平になっていることを確認してください。
- オートローダーは、ACコンセントの近くにある水平な面上にインストールしてください。通気のために、ユニットの背面側に約15cmの隙間をあけてください。

注: オートローダーをテーブルトップに設置する場合、最大3台のオートローダーを積み重ねることが可能です。

ラックへのインストール



警告: 作業を開始する前に、ラックが十分に安定していることを確認してください。ラックに水平脚が付いている場合は床まで延ばし、固定脚が必要な場合は取り付けてください。ラック転倒防止器が付いている場合は、しっかり固定してください。転倒防止器が緩んでいると、ラックが倒れてけがをしたり、テープ オートローダーが損傷したりする恐れがあります。



注意: インストール作業中は、オートローダーのトップカバーを取り外さないでください。トップカバーを取り外すと、オートローダーの損傷を引き起こす恐れがあります。また、オートローダーのシャーシが曲がって正しくインストールできなくなります。



注意: ラックおよびラックに設置するすべての装置は、必ず、正しくアース接続してください。ラック コンポーネント全体の電流が、パワー ディストリビューション ユニットまたはコンセントの電流定格を超えていないことを確認してください。

オートローダーの準備

図に示すように、内側のレールとフロント マウンティング ブラケットを、オートローダーの側面に取り付けてください。

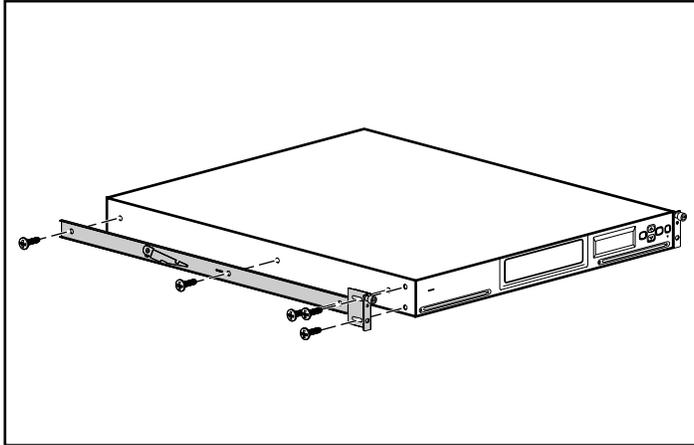


図2-2: オートローダーを準備する

オートローダーに付属のテンプレートを使用して、ラックのマウンティング レールに、ラック設置用部品の取り付け位置を示すマークを付けます。

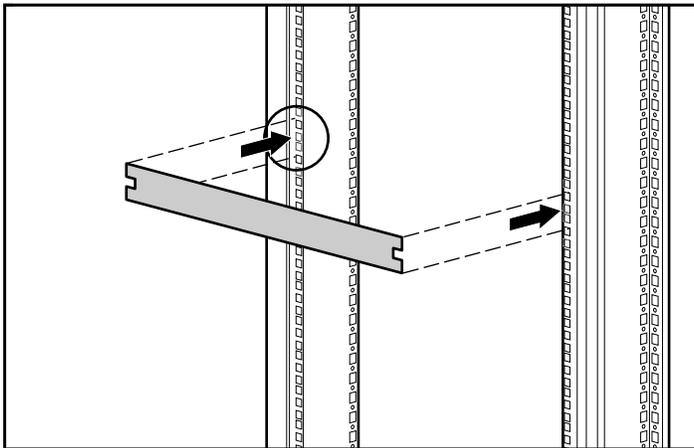


図2-3: ラック テンプレート

1. フロント マウンティング レールの両側に、1U取り付け位置の中心のマークを付けます。
2. リア マウンティング レールで手順1を繰り返します。
3. リア ブラケットの2本のネジを緩め、レールを押し込んでから取り付けます。

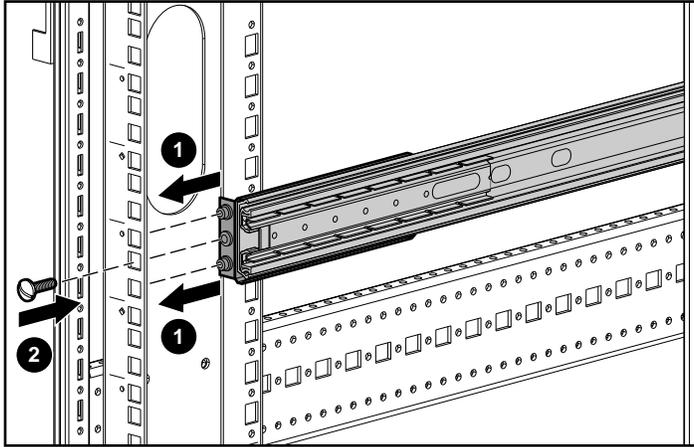


図2-4: レールの正面側を取り付ける

4. 図に示すように、一方のマウンティング レールをラックの内側に挿入します。
5. レールのフロント ブラケットをラックの穴に通し、中央の穴を、前の手順でマークを付けた位置に合わせます。
6. 1本のネジを中央の穴に挿入して、レールの正面側を固定します。

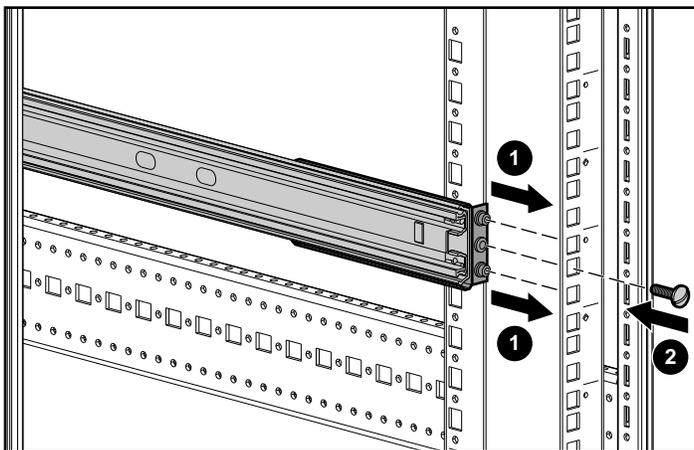


図2-5: レールの背面側を取り付ける

7. レールの中央の穴をマークを付けた位置に合わせ、リア ブラケットを引き出します。
8. レールのリア ブラケットをラックの穴に通し、中央の穴をマークを付けた位置に合わせます。
9. 1本のネジを中央の穴に挿入して、レールの背面側を固定します。
10. リア ブラケットの2本のネジを固定します。
11. もう一方のレールについて、手順3～10を繰り返します。

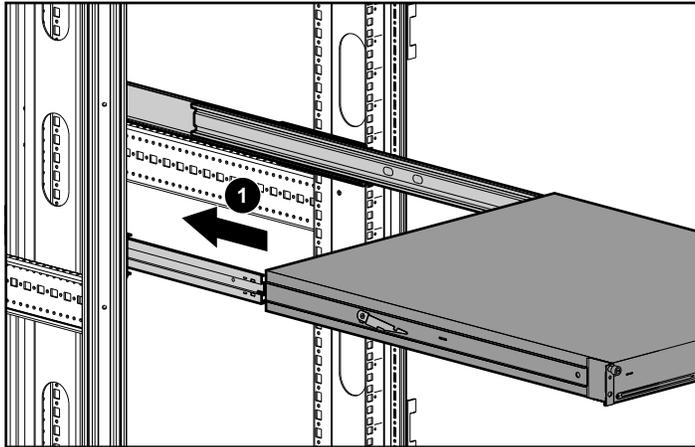


図2-6: オートローダーを取り付ける

重要: 必ず、内側のレールを引き出した位置でロックしてから、オートローダーを挿入してください。ロックしていないと、レールが動いて挿入が困難になることがあります。

12. オートローダーをラックに配置し、各サポートレールがマウンティングレールに載るようにします。サポートレールは、マウンティングレールの内部にあるベアリングに沿ってスライドします。
13. リリースラッチにより挿入が停止されるまで、オートローダーをマウンティングレールの内部にスライドさせます①。



警告: オートローダーはかなり大きく重量もあるので、安全に設置するには2人で作業を行ってください。

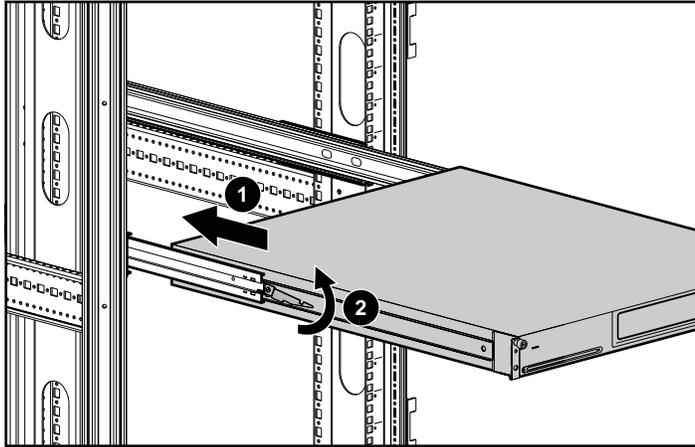


図2-7: オートローダーを配置する

14. 以下のようにして、オートローダーをラック内にスライドさせます①。
- a. 一方のリリース ラッチを持ち上げ②、同時に反対側のリリース ラッチを押し下げます。
 - b. マウンティング ブラケットがマウンティング レールの正面側にくっつくまで、オートローダーを前方にスライドさせます。

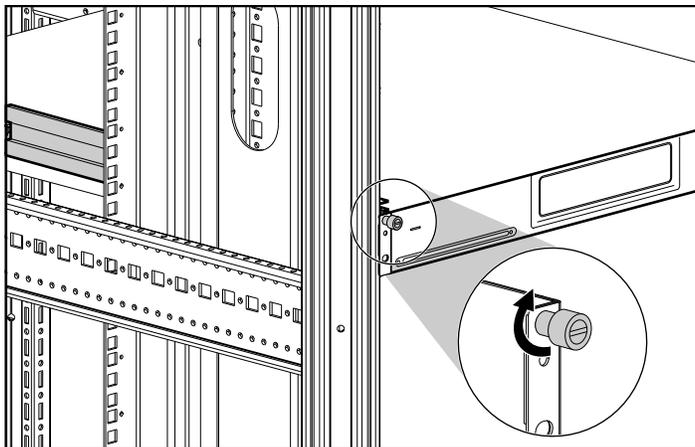


図2-8: オートローダーを固定する

- c. つまみネジを使用してオートローダーを固定します。

重要: オートローダーをスライドさせている間は、内側のレールのロックを解除しないでください。オートローダーが所定の位置までスライドしたら、内側のレールは自動的にロック解除されます。

輸送用ネジの取り外し



注意: オートローダーは、出荷時に輸送用ネジが輸送用位置（上側の穴）に取り付けられています。輸送用ネジを上側の穴に取り付けた状態で、オートローダーを動作させないでください。輸送用ネジを動作位置（下側の穴）に取り付けてから動作させてください。

ホスト コンピュータへの接続

Wide Ultra2 SCSI LVDケーブルを使用して、オートローダーをホスト コンピュータに接続するには、以下の手順に従ってください。

1. オートローダーをサポートするアプリケーション ソフトウェアを、ホスト コンピュータにインストールします。
2. Wide Ultra SCSIケーブルを接続する際には、ホスト コンピュータおよび接続されているすべてのデバイスの電源を切ります。SCSIケーブル①を、オートローダーの上側のSCSIコネクタに接続します。
3. オートローダーをSCSIバス上の終端のデバイスとして接続する場合は、付属のターミネータ②を下側のSCSIコネクタに接続します。
4. SCSIコネクタ③をホスト コンピュータに接続します。

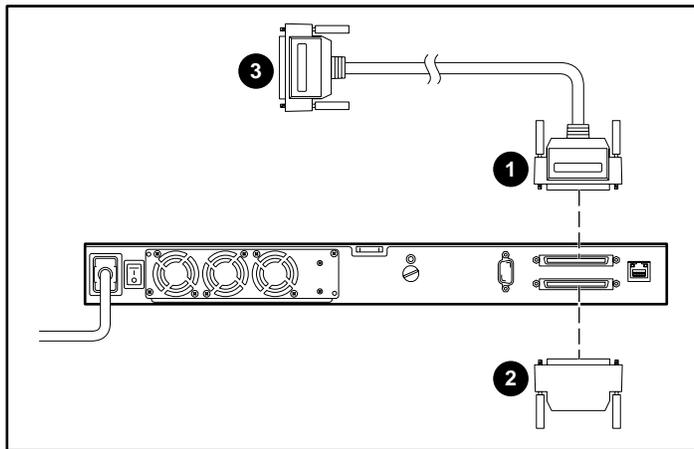


図2-9: オートローダーをホストに接続する



注意: 高電圧ディファレンシャル (HVD) SCSIバスにはオートローダーを接続しないでください。接続すると、オートローダー、またはSCSIバス上のその他のデバイスが損傷する場合があります。

電源ケーブルの接続

1. オートローダーの背面にある電源スイッチがオフになっていることを確認します。

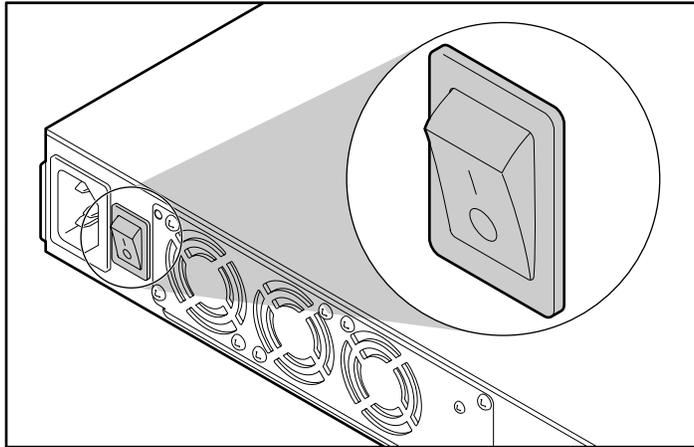


図2-10: オートローダーの電源を切る

2. 電源ケーブルをオートローダーに接続し、次に電源コンセントに接続します。

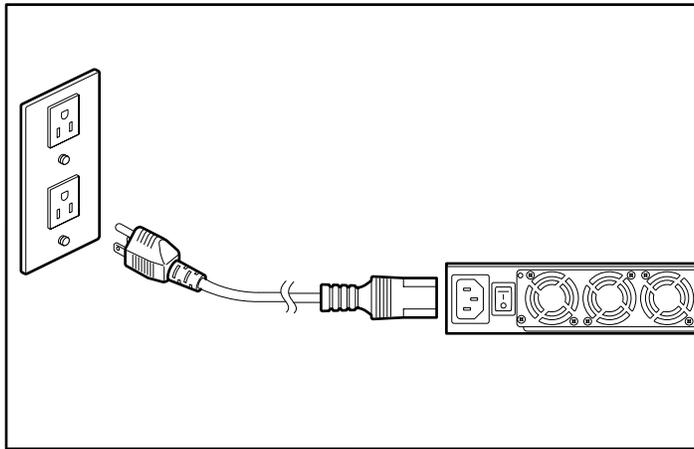


図2-11: 電源ケーブル

オートローダーのデジチェーン接続

オプション構成として、最大3台のオートローダーを同じSCSIチャンネルに同時に接続することができます。デジチェーン接続する場合は、LVD SCSIケーブルの合計の長さ（内部および外部）が12m以下でなければならないことに注意してください。図2-12に示すように、オートローダーの内部ケーブルの長さは2mです。

注: たとえば、ホストからオートローダーへの接続に1.8mのケーブルを使用し、終端されている他のオートローダーへのデジチェーン接続に0.9mのケーブルを使用した場合、合計のケーブル長は $1.8m+2m+0.9m+2m=6.7m$ になります。

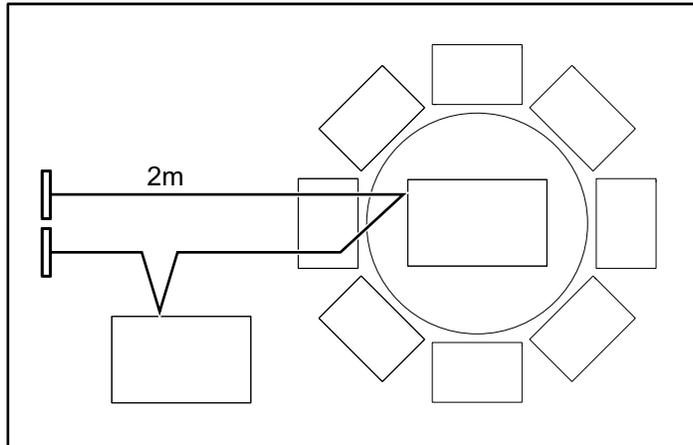


図2-12: 内部SCSIケーブル

重要: 同じSCSIバス上のすべてのデバイスは、異なるSCSI IDを持たなければなりません。

シングルエンドモード

SCSIシングルエンド(SE)ホストアダプタまたは(SE)ターミネータが使用されている場合、オートローダーはシングルエンドモードで動作します。シングルエンドモードのケーブル長の制限により、シングルエンドモードで動作しているオートローダーをデジチェーン接続することはできません。

概要およびセットアップ

この章では、コントロールパネル、基本的な設定、カセットの取り扱い、スロット番号の割り当て、および日常のお手入れについて説明します。

コントロールパネル

コントロールパネルを使用して、オートローダーの設定、AITドライブの設定、およびネットワークの設定を行うことができます。また、オートローダーおよびAITテープドライブに関する特定の情報を表示することも可能です。

コントロールパネルの使用

コントロールパネルを使用することにより、次のタスクを実行できます。

- オートローダーおよびAITドライブ関連の設定
- ネットワーク関連の設定
- オートローダーに関連する情報の表示
- ハードウェアのテスト

注: 一部のセットアップおよび操作は、インターネットブラウザを介して実行できます。

コントロールボタン

コントロールパネルメニューを操作するには、以下のボタンを使用してください。

[MENU]ボタン

このボタンを2秒間押し続けると、コントロールパネルメニューが表示されます。

▼ボタン、▲ボタン

これらのボタンは、メニューを選択し、英数字と記号を入力するために使用します。

- ▲を押すと前のメニューに移動し、▼を押すと次のメニューに移動します。
- ▲を押すと英数字と記号全体の中から次の1つが選択され、▼を押すと前の1つが選択されます。

[ENTER]ボタン

[ENTER]ボタンは、次のために使用します。

- 表示されたメニューまたは操作を、確定または実行します。
- カーソルを右に移動します。
- ホスト名、パスワードなどの文字を選択します。

注: スペースを選択して[ENTER]を押すと、不要な文字が削除されます。

[CANCEL]ボタン

[CANCEL]ボタンは、次のために使用します。

- 操作をキャンセルして、前のメニューに戻ります。
- カーソルを左に移動します。
- 一部の操作を完了します。

フロント パネルのボタンの無効化

コントロール ボタンが誤って押されるのを防ぐために、フロント パネルのボタンを無効化することができます。ブラウザを使用して、オートローダーの管理メニューでボタンを無効化してください。詳細については、「5 管理メニューの使用」を参照してください。

注: オートローダーの電源を切ると、[Front Panel Operation]の設定は[Enable]に戻ります。

ステータス ディスプレイの表示

通常のアクティブ状態の間、オートローダーのLCDパネルにはステータス情報が表示されます。

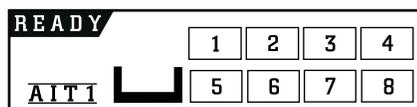


図3-1: ステータス ディスプレイ

ステータス ディスプレイ メッセージ

表示されるメッセージの意味は、次のとおりです。

- **READY** - 待機中
- **PICK** - ビッカーがカセットを取り出し中
- **MOVE** - カセットを移動中
- **PUT** - カセットをAITドライブまたはスロットに挿入中
- **Clean** - クリーニングテープがドライブヘッドをクリーニング中
- **Load** - テープドライブがテープをロード中
- **Write** - ドライブがテープにデータを書き込み中
- **Read** - ドライブがテープからデータを読み取り中
- **RWND** - テープを巻き戻し中
- **Space** - ドライブは高速検索を実行中
- **UNLD** - ドライブはテープをアンロード中

AITメディア タイプ

AITドライブのタイプは、ディスプレイの左下に表示されます。ステータス画面に表示されているドライブタイプと互換性のあるカセットのみを使用してください。

カセットの位置

オートローダーにカセットが挿入されている場合、対応するスロットの番号が反転表示されます。

AITドライブの状態

AITドライブの中にカセットが存在する場合、が表示されます。

AITドライブの中にカセットが存在しない場合、が表示されます。

図3-2は、スロット1、8、およびテープドライブの中にカセットが存在することを示しています。

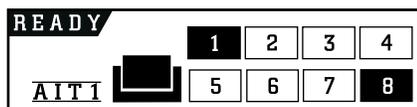


図3-2: カセットの位置

ピッカー

ピッカーがアクティブな場合は、と表示されます。

注: ステータス情報は、ブラウザを介して表示することも可能です。

スロット番号の割り当て

スロット番号は、カセットを保持できる物理的位置を示します。アプリケーションは、スロット番号を使用して、オートローダーのスロットを区別します。このオートローダーの内部では、カセットスロットとAITドライブに、以下のようにスロット番号が割り当てられています。

注: オートローダーのスロット番号は固定番号なので、再割り当てはできません。

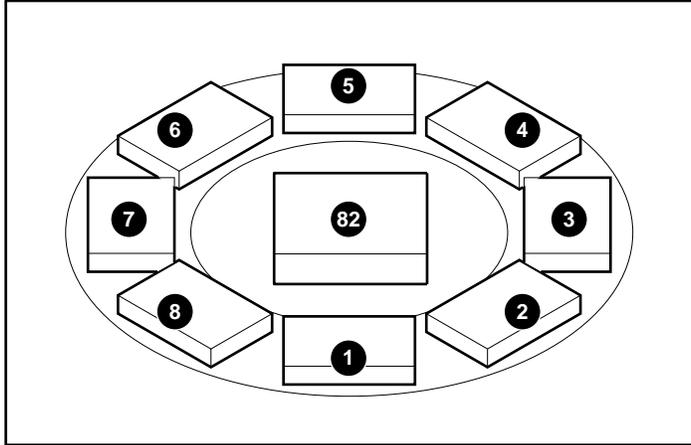


図3-3: スロット番号

メインメニュー

AIT 35GBオートローダーのメニューおよびサブメニュー構造を、次の表に示します。

メニュー項目	説明
Information	
Autoloader	オートローダーについての情報を表示します
Drive	AITドライブについての情報を表示します
Configuration	
Date and Time	日時を設定します
Warning	デバイスの寿命警告を有効/無効にします
LCD Contrast	LCDパネルの輝度を設定します
Sequential Mode	シーケンシャル モードを有効または無効にします
Unload	アンロード モードを有効または無効にします (シーケンシャル モードが有効になっていなければなりません)
Autoload	オート ロード モードを有効または無効にします (シーケンシャル モードが有効になっていなければなりません)
Network	
Host	ホスト名を入力します
Domain	ドメイン名を入力します
IP Address	IPアドレスを入力します
DNS	サポートされていません
Gateway	デフォルト ゲートウェイを設定します
MAC Information	MACアドレスを表示します
SCSI	ID - テープ ドライブおよびオートローダーのSCSI IDを設定します Parity - テープ ドライブおよびオートローダーのパリティを有効/無効にします
Eject/Insert Tape	
From Autoloader	オートローダーからカセットを取り出します
From Drive	ドライブからカセットを取り出します
Into Autoloader	オートローダーにカセットを挿入します
Eject all Tapes	ドライブおよびオートローダーからすべてのカセットを取り出します
Move Tape	Source - 選択したスロットまたはドライブからカセットを移動します Destination - 選択したスロットまたはドライブにカセットを配置します
Password	パスワードの変更を可能にします
DR Mode	
Enter DR Mode	ディザスタ リカバリ モードを開始します
Exit DR Mode	ディザスタ リカバリ モードを終了します
Shut down System	
Reset	オートローダーを再初期化します
Shutdown	オートローダーの電源を切ります

初期セットアップ

オートローダーの初期セットアップを行うには、以下の手順に従ってください。

1. オートローダーの電源を入れます。
2. 日時を設定します。
3. オートローダーおよびAITドライブのSCSI IDを、必要に応じて設定します。
4. カセットを挿入します。
5. ホスト コンピュータ上のアプリケーション プログラムを、ユニットとともに使用するよう設定します。

注: アプリケーション ソフトウェアのマニュアルに記載されている手順に従って、ソフトウェアをオートローダー用にセットアップしてください。

6. ブラウザから制御したい場合は、TCP/IPネットワークに接続します。

オートローダーの電源投入

オートローダーの電源を入れてから、ホスト コンピュータの電源を入れてください。

重要: ホスト コンピュータを起動してからオートローダーの電源を入れると、オートローダーのSCSI IDが検出されません。必ず、オートローダーを起動してから、ホスト コンピュータを起動してください。

1. オートローダーの背面にある電源スイッチを押します。

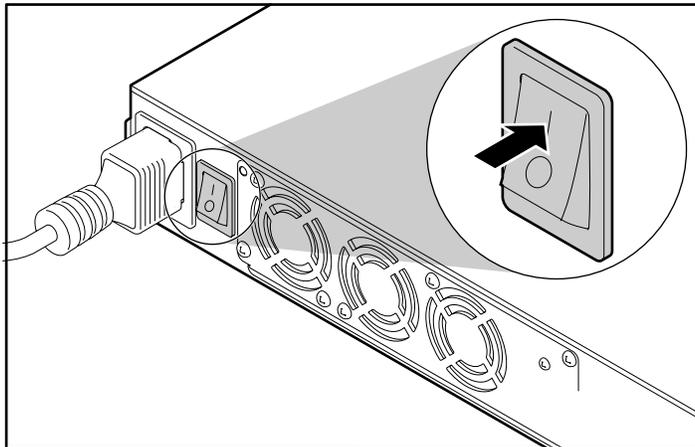


図3-4: オートローダーの電源を入れる

次のメッセージが表示され、起動処理が開始されます。起動には数分かかります。

**AIT 35GB
AUTOLOADER**

図3-5: 起動

Initializing

図3-6: 初期化中

初期化が完了すると、オートローダーは、日時モードに入ります。

```
Jan/01/2002      12:00:00
[ENTER]         to set the
                Date and Time
[CANCEL]        to exit
```

図3-7: 時刻設定モード

2. 日時を変更するには、[ENTER]を押して、次に示す「日時の設定」の項の手順4に進みます。変更しない場合は、[CANCEL]を押します。

オートローダーが起動処理を完了した後は、次の画面が表示されます。

```
READY
      1  2  3  4
AITI  █  5  6  7  8
```

図3-8: ステータス ディスプレイ

日時の設定

日時は、起動中に変更するか、[Configuration]メニューを使用して設定します。

注: 日時は、ブラウザを介して設定することも可能です。ただし、オートローダーの電源が入っていない場合は更新できません。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。

```
Menu           12:34
1. Information
2. Configuration
3. Network
```

図3-9: メニュー

2. ▲または▼を押して[Configuration]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ▲または▼を押して[Date & Time]を選択し、[ENTER]を押します。

```
Jan/01/2001      12:00:00
Japan
(GMT+ 9:00)
```

図3-10: 日時

日時が表示されます。

4. 月、日、および年を設定します。
 - a. 月の桁が点滅したら、▲および▼を押して月を設定し、[ENTER]を押します。
 - b. 日の桁が点滅したら、▲および▼を押して日を設定し、[ENTER]を押します。

- c. 年の桁が点滅したら、▲および▼を押して年を設定し、[ENTER]を押します。
5. 時間、分、および秒を設定します。
 - a. 時間の桁が点滅したら、▲および▼を押して時間を設定し、[ENTER]を押します。
 - b. 分の桁が点滅したら、▲および▼を押して分を設定し、[ENTER]を押します。
 - c. 秒の桁が点滅したら、▲および▼を押して秒を設定し、[ENTER]を押します。
6. 国/タイムゾーンが点滅したら、▲および▼を押して国/タイムゾーンを設定し、[ENTER]を押します。

Jan/01/2001	12:00:00
Japan	
(GMT+9:00)	
[ENTER] to activate	

図3-11: [ENTER]を押して日時をアクティブにする

7. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
日付、時刻、および国/タイムゾーンが設定されます。表示は[Configuration]メニューに戻ります。
8. [CANCEL]を2回押して、ステータスディスプレイに戻ります。

SCSI IDの設定

SCSIホストアダプタを含むSCSIバス上のすべてのSCSIデバイスのIDを調べて、未使用のSCSI IDをオートローダー用を選択します。オートローダーのデフォルトIDは6、ドライブのデフォルトIDは5ですが、0~15の未使用の番号をどれでも選択できます。工場出荷時のデフォルトのSCSI ID(5および6)がSCSIバス上の他のデバイスにより使用されていない場合、オートローダーまたはドライブのSCSI IDを変更しなくても、変更する必要はありません。

コントロールパネルの[SCSI]メニューを使用して、オートローダーおよびAITドライブの、SCSI IDとSCSIパリティを設定してください。

注: SCSI IDは、ブラウザを介して設定することも可能です。

1. ステータスディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[SCSI]を選択し、[ENTER]を押します。

	ID	Parity
Autoloader	06	YES
Drive	05	YES

図3-12: SCSI IDおよびパリティ

3. オートローダーのSCSI IDおよびSCSIパリティを設定します。
 - a. [Autoloader]の[ID]設定が点滅したら、▲または▼を押してSCSI IDを設定し、[ENTER]を押します。
 - b. [Parity]設定が点滅したら、▲または▼を押してSCSIパリティを設定し、[ENTER]を押します。▲または▼を押して[YES]を選択すると、SCSIパリティ機能が有効になります。

SCSIパリティ機能が有効にされている場合、SCSIバスを通過するすべてのデータに対してパリティチェックが実行されます。SCSIパリティの、工場出荷時の推奨デフォルト設定は、次のとおりです。

- オートローダー: パリティ有効 ([YES])
- AITドライブ: パリティ有効 ([YES])

4. 同様に、AITドライブも設定します。

重要: SCSIバス上の2台のデバイスが同じSCSI IDを使用することはできません。オートローダーは2つのSCSI IDを使用します。それらのSCSI IDは同じであってはならず、他のデバイスがそれらのIDを使用することもできません。

```

ID      Parity
Autoloader 06  YES
Drive     05  YES
[ENTER] to activate

```

図3-13: [ENTER]を押してSCSI IDおよびパリティをアクティブにする

5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。

```

Warning 12:34
Reboot the system to
activate the setting
[ENTER] to reset

```

図3-14: [ENTER]を押してSCSI設定をリセットする

6. [[ENTER] to reset]が表示されたら、[ENTER]を押します。

オートローダーはリセットされます。

注: ホストを再起動しなければ、新しいSCSI設定は認識されません。

ネットワークへの接続

オートローダーがネットワークに接続されている場合は、ブラウザを使用してオートローダーの設定およびステータス情報の表示を行うことができます。オートローダーをネットワークに接続するには、以下の手順に従ってください。

- オートローダーのネットワーク設定を行います。
- ネットワーク ケーブルを接続します。
- ブラウザからオートローダーにアクセスします。詳細については、「5 管理メニューの使用」を参照してください。

オートローダーのネットワーク設定

ネットワークに接続するには、コントロール パネルの[Network]メニューを使用して、必要な設定を行います。

注: オートローダーはDNSをサポートしていません ([Network]メニューのDNS設定はサポートされていません)。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Network]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ホスト名を入力するには、▲または▼を押して[Host]を選択し、[ENTER]を押します。

```

Host
  █

```

図3-15: ホスト

4. [Host]名またはカーソルが点滅したら、ホスト名を入力します。

注: 何も設定されていない場合は、点滅する四角形が表示されます。

- a. 同じホスト名が同じネットワーク上に存在しないことを確認して、ホスト名を入力します。
- b. ホスト名を変更するには、▲または▼を使用して希望する文字を選択し、[ENTER]を押してその文字を受け入れます。[CANCEL]を押すと1文字前に戻ります。入力した最後の文字を削除するには、[CANCEL]を押してから、▲または▼を使用して点滅する文字を選択します。
- c. 点滅するカーソルが表示されたら、[ENTER]を押して、ホスト名を受け入れます。

```
Host
AIT-35
[ENTER] to activate
```

図3-16: [ENTER]を押してホスト名をアクティブにする

5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
6. ドメイン名を設定するには、▲または▼を押して[Domain]を選択し、[ENTER]を押します。
7. [Domain]名またはカーソルが点滅したら、希望するドメイン名を入力します。

何も設定されていない場合は、点滅する四角形が表示されます。

- a. ホスト名を変更するには、▲または▼を使用して希望する文字を選択し、[ENTER]を押してその文字を受け入れます。[CANCEL]を押すと1文字前に戻ります。入力した最後の文字を削除するには、[CANCEL]を押してから、▲または▼を使用して点滅する文字を選択します。
- b. 点滅するカーソルが表示されたら、[ENTER]を押して、ドメイン名を受け入れます。

```
Domain
XXX
[ENTER] to activate
```

図3-17: [ENTER]を押してドメインをアクティブにする

8. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
9. IPアドレスを設定するには、▲または▼を押して[IP Address]を選択し、[ENTER]を押します。
 - a. ▲または▼を押して[YES]を選択すると、DHCPサーバに割り当てられたIPアドレスが使用されます。次に、手順12に進みます。
 - b. ▲または▼を押して[NO]を選択すると、固定IPアドレスが使用されます。次に、手順10に進みます。
10. [IP Address]の設定が点滅したら、▲または▼、[ENTER]、および[CANCEL]を使用してIPアドレスを設定します。新しいIPアドレスを入力するには、[ENTER]を押します。
11. [Mask]の設定が点滅したら、▲または▼、[ENTER]、および[CANCEL]を使用してサブネットマスクを設定します。新しいサブネットマスクを入力するには、[ENTER]を押します。

```
DHCP YES
IP 000.000.000.000
Mask 000.000.000.000
[ENTER] to activate
```

図3-18: [ENTER]を押してDHCPをアクティブにする

12. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。

13. デフォルト ゲートウェイを設定するには、▲または▼を押して[Gateway]を選択し、[ENTER]を押します。
14. [Gateway]の設定が点滅したら、▲または▼ボタン、[ENTER]、および[CANCEL]を使用して、デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。新しいゲートウェイを入力するには、[ENTER]を押します。

```

Gateway
 000.000.000.000
[ENTER] to activate

```

図3-19: [ENTER]を押してゲートウェイをアクティブにする

15. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
16. MACアドレスを表示するには、▲または▼を押して[MAC Information]を選択し、[ENTER]を押します。MACアドレスが表示されます。

```

MAC Address
00-00-00-00-00-00

```

図3-20: MACアドレス

17. [CANCEL]を2回押して、メニュー表示に戻ります。
18. オートローダーのネットワーク設定を完了した後は、シャットダウン手順を実行して、ネットワークケーブルを接続します。

ネットワーク ケーブルの接続

ネットワーク設定を完了し、オートローダーの電源を切った後で、ネットワーク ケーブルを接続します。

1. ハブから、オートローダーの背面にあるEthernetコネクタまで、ネットワーク ケーブルを接続します。
2. オートローダーの電源を入れます。

ブラウザからのオートローダーへのアクセス

ブラウザを使用して、オートローダーがネットワークに接続されているか確認します。

1. クライアントコンピュータでブラウザを起動します。
2. [アドレス]または[場所]フィールドに、http://XXX.XXX.XXX.XXX/と入力します。

XXX.XXX.XXX.XXXには、オートローダーのIPアドレスを入力します(たとえば、192.168.0.1)。

重要: オートローダーに設定されたIPアドレスを入力する場合、余分な0はアドレスに含めないでください(たとえば、192.168.000.001)。

注: DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)サーバにより割り当てられたIPアドレスが使用されている場合は、現在のIPアドレスをブラウザの[アドレス]フィールドに入力して、[移動]をクリックしてください。現在のIPアドレスは、コントロールパネルの[Network]メニューの[IP Address]で調べることができます。

重要: オートローダーの管理メニューにアクセスする場合は、パスワードを変更してから設定を行うことをおすすめします。

パスワードの設定または変更

パスワードは、ブラウザを使用して特定のメニューにアクセスする場合に必要になります。

注: パスワードは、ブラウザを介して変更することも可能です。

重要: デフォルトのパスワードは、CPQ-35ALです。

重要: パスワードは、大文字と小文字を区別します。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Password]を選択し、[ENTER]を押します。
3. [Enter Password]と表示されたら、現在のパスワードの最初の1文字を入力します。
 - a. ▲または▼を使用して文字を選択します。[?]フィールドに文字が表示されます。
 - b. 文字が表示されたら、[ENTER]を押します。[*]が表示されます。
 - c. パスワードの残りの文字について、手順aおよびbを繰り返します。
 - d. 間違った場合は、[CANCEL]を押すと[*]が1つ消去されます。
 - e. 初めてパスワードを設定する場合は、CPQ-35ALと入力します。
4. [Enter New Password]と表示されたら、新しいパスワードを、英数字と記号を使用して入力します。

注: パスワードのために設定できる最大文字数は8文字です。
5. [ENTER]を押します。
6. 新しいパスワードを再び入力します。
7. [ENTER]を押します。
8. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。

以上で、パスワードは設定または変更されました。表示はメニューに戻ります。
9. [CANCEL]を押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

重要: パスワードを忘れた場合は、「D メンテナンスおよびトラブルシューティング」の、パスワードのリセットについての項を参照してください。

その他のコンフィギュレーション設定

日時の設定に加えて、以下のコンフィギュレーション設定も可能です。

寿命警告表示の無効化

デバイスが工場から出荷される際には、寿命警告機能が有効にされています。

注: 寿命警告は、ブラウザを使用して変更および表示することも可能です。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Configuration]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ▲または▼を押して[Warning]を選択し、[ENTER]を押します。
4. ▲または▼を押して[YES]を選択し、[ENTER]を押します。

工場出荷時の推奨デフォルト設定は、[YES]です。[NO]を選択すると、警告が無効になります。

5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
以上で、寿命警告は設定されました。表示はメニューに戻ります。
6. [CANCEL]を2回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

LCDパネルの輝度の調節

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Configuration]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ▲または▼を押して[LCD Contrast]を選択し、[ENTER]を押します。
4. ▲または▼を押してLCDのコントラストを調節し、[ENTER]を押します。
▲を押すとLCDパネルは暗くなり、▼を押すと明るくなります。

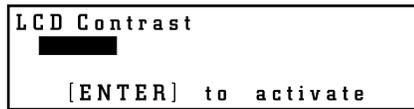


図3-21: [ENTER]を押してLCDコントラストをアクティブにする

5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
以上で、LCDパネルの輝度は設定されました。表示はメニューに戻ります。
6. [CANCEL]を2回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

シーケンシャル モード

シーケンシャル モードは、メディアを管理しない特定のバックアップアプリケーションをサポートします。バックアップの間、1本のカートリッジの読み取りまたは書き込みがテープの終わりまで実行された場合、オートローダーは自動的にそのカセットをスロットに戻し、次のより大きな番号のスロットからテープドライブにカセットをロードして、読み取りまたは書き込みを実行します。これは、バックアップソフトウェアがドライブへのアクセスを停止するまで、またはすべてのカセットが順番にアクセスされるまで継続されます。

シーケンシャル モードを有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Configuration]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ▲または▼を押して[Sequential Mode]を選択し、[ENTER]を押します。
4. ▲または▼を押して[YES]を選択し、[ENTER]を押します。
5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
以上で、オートローダーはシーケンシャル モードになりました。表示はメニューに戻ります。
6. [CANCEL]を2回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

アンロードの継続

アンロードの継続の選択がオートローダーに影響するのは、次の場合のみです。

- オートローダーがシーケンシャル モードになっている
- オートローダーに8本のカセットがロードされている

- カセット番号8がドライブに入っている
- SCSI unloadコマンドが発行された

アンロードの継続が有効にされていない場合、オートローダーはカセット番号8をアンロードして停止します。アンロードの継続が有効にされている場合、オートローダーはカセット番号8をアンロードしてから、カセット番号1をドライブにロードします。

アンロードの継続を有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Configuration]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ▲または▼を押して[Unload Continue]を選択し、[ENTER]を押します。
4. ▲または▼を押して[YES]を選択し、[ENTER]を押します。
5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
以上で、アンロードの継続は有効になりました。表示はメニューに戻ります。
6. [CANCEL]を2回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

オートロードモード

オートロードモードの選択がオートローダーに影響するのは、次の場合のみです。

- オートローダーがシーケンシャルモードになっている
- オートローダーに1本以上のカセットがロードされている
- オートローダーの電源が切られ、再び電源が入れられた

オートローダーの電源が切られ、再び電源が入れられた後で、オートローダーは自動的にカセットを空のドライブにロードします。

オートロードモードを有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Configuration]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ▲または▼を押して[Auto Load Mode]を選択し、[ENTER]を押します。
4. ▲または▼を押して[YES]を選択し、[ENTER]を押します。
5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
以上で、オートローダーはオートロードモードになりました。表示はメニューに戻ります。
6. [CANCEL]を2回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

オートローダーおよびドライブの情報の表示

コントロールパネルの[Information]メニューを使用して、オートローダーまたはドライブの次の情報を表示できます。

- ベンダID
- 製品名
- ファームウェアバージョン

注: オートローダーまたはドライブに関連する情報は、ブラウザを介して表示することも可能です。

1. ステータスディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. [Information]を選択して、[ENTER]を押します。
[Information]メニューが表示されます。
3. [AutoLoader]を選択して、[ENTER]を押します。
オートローダー情報が表示されます。

```
V/ID Compaq
Name AIT35 Autoloader
S/N 00001161
Version 1.14
```

図3-22: オートローダー情報

4. [CANCEL]を押して[Information]メニューに戻ります。
5. [Drive]を選択して、[ENTER]を押します。
AITドライブ情報が表示されます。

```
V/ID Compaq
Name SDX-400C
S/N 12345678
Version 3.0D
```

図3-23: AITドライブ情報

6. [CANCEL]を3回押して、ステータスディスプレイに戻ります。

ディザスタ リカバリ モード

テープドライブは、コンパック認定のさまざまなテープバックアップソフトウェアベンダによって提供されるディザスタリカバリ (DR) モードをサポートしています。簡単な手順を実行することにより、テープドライブは、サーバを起動時に、AITテープカセットから自動システムの復旧を実行するブート可能なデバイスになります。詳細については、Compaq AIT Documentation CDに収録されている『DRTapeソリューション リファレンスガイド』を参照してください。

各オペレーティングシステムの最新のDRサポートを確認するには、コンパックのWebサイト<http://www.compaq.com/storage/>(英語)で、ご使用のテープドライブ製品のページを参照してください。各オペレーティングシステムのDRサポートが頻繁に追加、更新されています。

注: DRモードを変更できるのは、AITドライブが空の場合のみです。

DRモードを開始する

1. ステータスディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。

2. ▲または▼を押して[DR Mode]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ▲または▼を押して[Enter DR Mode]を選択し、[ENTER]を押します。
4. ▲または▼を押して[ON]を選択し、[ENTER]を押します。
5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
6. オートローダーの電源を切ってから再び電源を入れるか、または、[ENTER]を押します。
[ENTER]を押した場合、[Executing]画面が表示され、内部ドライブの電源が切られてから再び電源が入れます。
7. 内部ドライブに再び電源が入れたら、[CANCEL]を2回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

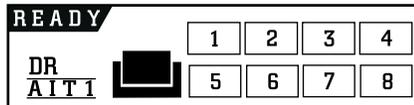


図3-24: DRモードのステータス画面

オートローダーの実行または初期化が終了したら、DRモード インジケータがステータス画面に表示されます。

DRモードを終了する

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[DR Mode]を選択し、[ENTER]を押します。
3. ▲または▼を押して[Exit DR Mode]を選択し、[ENTER]を押します。
4. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
[Executing DR Mode]画面が表示されます。
5. オートローダーが実行を終了したら、[DR Mode OFF]画面が表示されます。[CANCEL]を2回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

システムのシャットダウン

[Shut Down System]メニューは、システムのシャットダウンまたは再起動を行う場合に使用します。シャットダウン手順を実行してから、電源スイッチを使用してオートローダーの電源を切る必要があります。

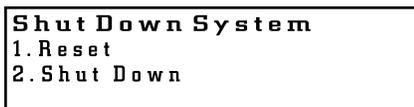


図3-25: [Shut Down System]メニュー

カセットの管理

カセットの取り扱いと保管

記録済みまたは未記録のカセットの寿命を延ばすために、以下の条件を満たした清潔な環境にカセットを保管してください。

- カセットに直射日光が当たらないようにしてください。また、ヒータや他の熱源から遠ざけてください。
- カセットは、5 ~ 32 の温度で保管してください。
- カセットを動作仕様の範囲外の場所に放置した場合、放置した時間と同じ時間(最長24時間)室温の中に置いて安定させてください。
- カセットをビデオ モニタ、モータ、磁石およびビデオまたはX線装置などの電磁障害が発生する装置のそばに置かないでください。データが変更される可能性があります。
- カセットは、相対湿度が20~60%でほこりなどのない環境で保管してください。また、カートリッジを長くご使用いただくために、相対湿度が20~40%の場所で保管してください。

カセットの準備

以下の手順を使用して、カセットを準備してください。

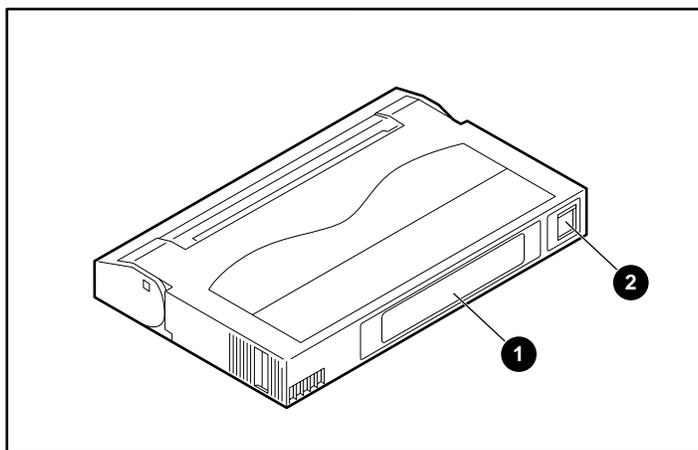


図4-1: カセット ラベルと書き込み禁止タブ

1. 必要に応じて、ラベル①を貼ります。
2. 書き込み禁止タブ②が書き込み可能位置に設定されているか確認します。タブがオレンジ色になっている場合は、カセットにデータを書き込むことができます。

重要: カセットには、データを誤って削除しないように書き込み禁止スイッチが付いています。

カセットの挿入

カセットをオートローダーに挿入するには、以下の手順に従ってください。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Eject/Insert Tape]を選択し、[ENTER]を押します。
[Eject/Insert]メニューが表示されます。
3. [Into AutoLoader]を選択して、[ENTER]を押します。
4. カセットの挿入方法を選択して、[ENTER]を押します。
 - a. スロットを指定してカセットを挿入するには、[Single Mode]を選択します。
 - b. 複数のカセットを続けて挿入するには、[Multiple Mode]を選択します。この場合は、最初のスロットのみを指定する必要があります。
5. ▲または▼を使用して希望するスロットを選択し、[ENTER]を押します。
6. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
カセット アクセス ドアが開きます。
7. カセットをスロットに挿入します。

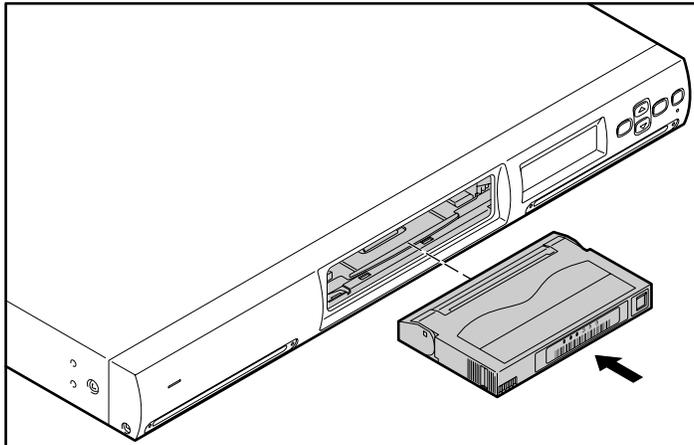


図4-2: カセットを挿入する

注: カセットが止まるまで押し込んでください。

8. 手順4で[Single Mode]を選択した場合は、[CANCEL]を押します。
9. 手順4で[Multiple Mode]を選択した場合は、[ENTER]を押します。
回転トレイが次のスロットに移動します。停止したらカセットを挿入して、再び[ENTER]を押します。すべてのカセットを挿入するまで繰り返してから、[CANCEL]を押します。



警告: 回転トレイの移動中はスロットに指を入れしないでください。けがをする危険があります。

10. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
カセット アクセス ドアが閉じて、初期化が実行されます。
11. 初期化が終了したら、[CANCEL]を3回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

カセットの取り出し

カセットをオートローダーから取り出すには、以下の手順に従ってください。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Eject/Insert Tape]を選択し、[ENTER]を押します。
[Eject/Insert]メニューが表示されます。
3. [From AutoLoader]を選択して、[ENTER]を押します。
注: [Eject From Drive]を選択した場合、カセットは、ドライブから取り出されるだけで、回転トレイ スロットには移動されません。
4. カセットの取り出し方法を選択して、[ENTER]を押します。
 - a. 1つのスロットを指定して、そのスロットのカセットを取り出すには、[Single Mode]を選択します。
 - b. 複数のカセットを続けて取り出すには、[Multiple Mode]を選択します。この場合は、最初のスロットのみを指定する必要があります。
5. ▲または▼を使用して、取り出すカセットが置かれているスロットの番号を選択し、[ENTER]を押します。
6. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
カセット アクセス ドアが開きます。
7. カセットをスロットから取り出します。
カセットを少し持ち上げて、引き出します。
8. 手順4で[Single Mode]を選択した場合は、[CANCEL]を押します。
9. 手順4で[Multiple Mode]を選択した場合は、[ENTER]を押します。
回転トレイが次のスロットに移動します。停止したらカセットを取り出して、再び[ENTER]を押します。すべてのカセットを取り出すまで繰り返してから、[CANCEL]を押します。



警告: 回転トレイの移動中はスロットに指を入れないでください。けがをする危険があります。

10. [ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
カセット アクセス ドアが閉じて、初期化が実行されます。
11. 初期化が終了したら、[CANCEL]を3回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。
注: ドライブの中にあるカセットを取り出すには、最初に[Move Tape]メニューを使用して、カセットを回転トレイ スロットに移動しなければなりません。

カセットの移動

カセットを、スロットからAITドライブに、またはその逆に移動することができます。

注: スロット間でカセットを移動することはできません。他のスロットにカセットを挿入したい場合は、最初にカセットを取り出してから、他のスロットに挿入しなければなりません。

注: 内蔵テープドライブに入っているテープは、スロットに移動してから、オートローダーから取り出さなければなりません。

1. ステータス ディスプレイで、[Menu]画面が表示されるまで[MENU]を押します。
2. ▲または▼を押して[Move Tape]を選択し、[ENTER]を押します。

```
Source      01
Destination Drive
```

図4-3: [Move Tape]の表示

注: ドライブの位置は固定されています。スロット番号のみを変更することができます。

3. ▲または▼を使用して移動元スロットの番号を選択し、[ENTER]を押します。
4. ▲または▼を使用して移動先スロットの番号を選択し、[ENTER]を押します。

```
Source      01
Destination Drive
[ENTER] to activate
```

図4-4: [ENTER]を押して移動を有効にする

5. [[ENTER] to activate]が表示されたら、[ENTER]を押します。
カセットが新しいスロットに移動し、表示はメニューに戻ります。
6. [CANCEL]を押して、ステータス ディスプレイに戻ります。

管理メニューの使用

この章では、オートローダーの管理メニューとその操作方法について説明します。また、メニューの詳細についても説明します。ブラウザを介して管理メニューを使用することにより、オブジェクトを操作し、システム、ネットワーク、およびSCSI IDに関連する設定を行うことができます。また、動作条件の確認や、オートローダーおよびAITドライブの情報の表示もできます。

注意事項

オートローダーの管理メニューを使用する場合は、次のブラウザ設定に注意してください。

- JavaScriptが有効に設定されていない場合、[Date and Time]の時刻は進みません。
- [Webページで指定されたフォントサイズ(スタイル)を表示しない]が設定されている場合、表示レイアウトに異常が発生することがあります。
- [戻る]ボタンを使用してページを表示する場合、最新情報が表示されないことがあります。これは、この操作により、ブラウザ キャッシュに保存された画面が表示されるためです。
- 不正なパラメータを入力した場合は、ブラウザの[戻る]ボタンを使用して、前の設定に表示を戻してください。
- Netscape 6.0を使用する場合、フォント サイズを[100%]に設定していないと、表示レイアウトに異常が発生することがあります。[Webページが指定したフォントを無視して、常にユーザ設定のフォントを使用]が選択されている場合、表示レイアウトに異常が発生することがあります。

ブラウザからのオートローダーへのアクセス

ブラウザを使用して、オートローダーがネットワークに接続されているか確認します。

1. クライアント コンピュータでブラウザを起動します。
2. [アドレス]または[場所]フィールドに、http://XXX.XXX.XXX.XXX/と入力します。

XXX.XXX.XXX.XXXには、オートローダーのIPアドレスを入力します(たとえば、192.168.0.1)。

重要: オートローダーに設定されたIPアドレスを入力する場合、余分な0はアドレスに含めないでください(たとえば、192.168.000.001)。

注: DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)サーバにより割り当てられたIPアドレスが使用されている場合は、現在のIPアドレスをブラウザの[アドレス]フィールドに入力して、[移動]をクリックしてください。現在のIPアドレスは、コントロール パネルの[Network]メニューの[IP Address]で調べることができます。

重要: オートローダーの管理メニューにアクセスする場合は、パスワードを変更してから設定を行うことをおすすめします。

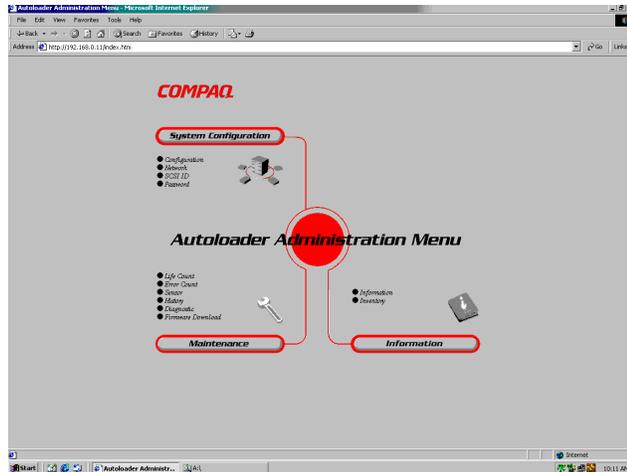


図5-1: ブラウザ ページ

オートローダーの管理メニュー

ブラウザを使用してオートローダーの管理メニューにアクセスすると、次が可能になります。

- システムの設定
- ネットワークの設定
- SCSI IDの設定
- パスワードの設定または変更
- ファームウェアのアップデート
- 動作ステータスの確認
- オートローダーの確認
- オートローダーおよびAITドライブの情報の表示
- ログの表示

メニュー項目

次のメニューが含まれています。

- **[System Configuration]メニュー** - システム、ネットワーク、およびSCSI IDに関連する操作および設定が可能です。
- **[Maintenance]メニュー** - オートローダーの動作ステータスの確認、またはファームウェアのダウンロードが可能です。
- **[Information]メニュー** - オートローダー、AITドライブ、およびカセットに関する情報を表示できます。

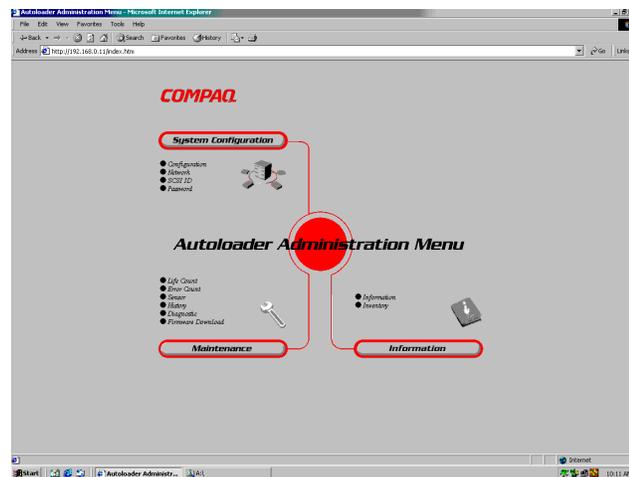


図5-2: Internet Explorerでのメニュー項目

[System Configuration]メニュー

[System Configuration]メニューでは、システムおよびネットワークに関連するオブジェクトを設定でき、また、システムおよびネットワークに関連する設定を変更することもできます。

[System Configuration]メニューには、次の項目があります。

- **[Configuration]** - 日時や寿命警告表示などのシステム オブジェクト。
- **[Network]** - ネットワーク関連の設定を行うことができます。
- **[SCSI ID]** - オートローダーおよびAITドライブのSCSI IDを設定できます。
- **[Password]** - パスワードを設定または変更できます。

[Configuration]

[Configuration]では、日時および寿命警告表示を設定できます。

1. オートローダーの管理メニューで、[System Configuration]をクリックし、次に[Configuration]をクリックします。管理メニューの[System Configuration]の下にある[Configuration]を直接クリックすることも可能です。

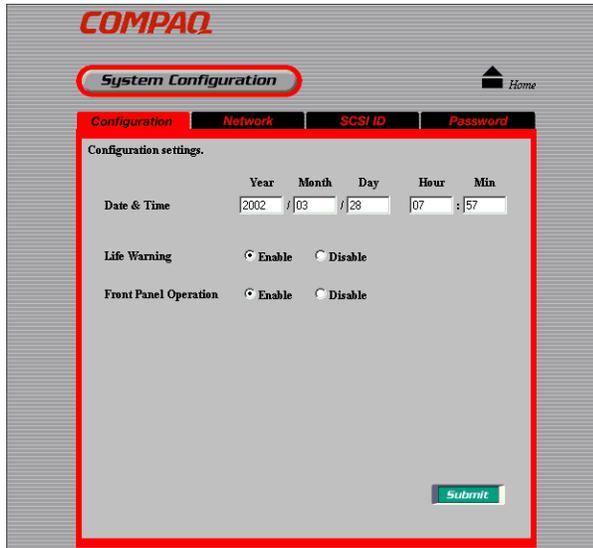


図5-3: [Configuration]ページ

2. 次の項目を設定します。
 - [Date & Time] - オートローダーの日時を設定します。日付は、年/月/日フォーマットで入力し、時刻は、時間/分/秒フォーマットで入力します。
注: オートローダーの電源が入っていない場合、日時を更新することはできません。
 - [Life Warning] - 特定の部品が指定回数よりも多く動作した場合に生成される警告を表示するかどうかを、クリックして選択します。警告は、オートローダーのLCDパネルに表示されます。[Disable]を選択すると、警告は表示されません。
 - [Front Panel Operation] - フロントパネルのボタンを有効にするかどうかを、クリックして選択します。[Disable]を選択すると、ボタンは機能しなくなります。
注: オートローダーの電源を切ると、[Front Panel Operation]の設定は[Enable]に戻ります。
3. [Submit]をクリックします。

[Network]

[Network]では、ネットワーク関連の設定を行うことができます。設定した後は、オートローダーを再起動しなければなりません。

注: ネットワークの設定は、オートローダーのコントロールパネルの[Network]メニューでも行うことができます。

1. オートローダーの管理メニューで、[System Configuration]をクリックし、次に[Network]をクリックします。管理メニューの[System Configuration]の下にある[Network]を直接クリックすることも可能です。

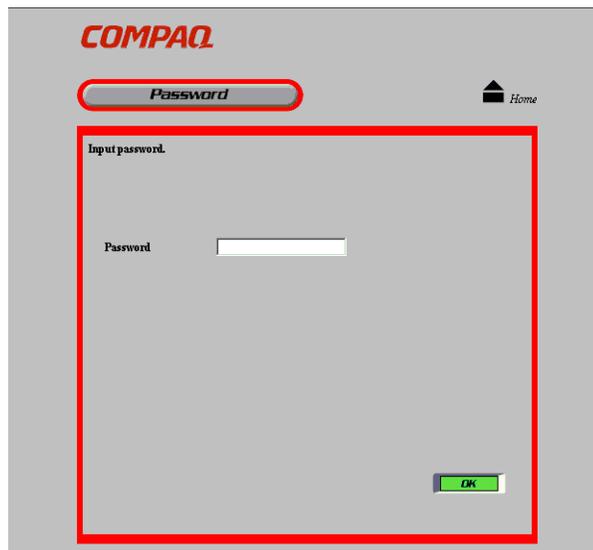


図5-4: [Input password]ページ

2. [Password]画面が表示されたら、オートローダーのパスワードを入力して、[OK]をクリックします。

注: パスワードが変更されていない場合、デフォルトのパスワードはCPQ-35ALです。

重要: パスワードを忘れた場合は、「D メンテナンスおよびトラブルシューティング」の、パスワードのリセットについての項を参照してください。

3. [Network Password]画面が表示されたら、[User Name]に[AutoLoad]と入力し、[Network Password]に[COMPAQ]と入力して、[OK]をクリックします。

ネットワークにアクセスするたびに、パスワードが要求されます。



図5-5: [Enter Network Password]

重要: オートローダー パスワード、ユーザ名、およびネットワーク パスワードは、大文字と小文字を区別します。

[Network]ページは、ブラウザを起動して、オートローダーの管理メニューにアクセスした場合のみ表示されます。

図5-6: [Network]ページ

4. 次の項目を設定します。

- [Host Name] - ホスト名を入力します。ホスト名を入力する前に、**同じサブネット内に同じ名前がすでに存在していないことを確認してください。**
- [Domain Name] - ドメイン名を入力します。
- [DHCP] - ネットワークDHCPサーバにより割り当てられたIPアドレスを使用するかどうかをクリックして選択します。[Enable]をクリックした場合、以下の設定は必要ありません。
 - [IP Address] - IPアドレスを入力します。
 - [Subnet Mask] - サブネット マスクを入力します。
 - [Gateway] - デフォルト ゲートウェイのIPアドレスを入力します。
 - [DNS (Primary)] - DNS (プライマリ) はサポートされていません。
 - [DNS (Secondary)] - DNS (セカンダリ) はサポートされていません。

5. [Submit]をクリックします。

6. [Reboot now?]が表示されたら、[OK]をクリックします。

オートローダーを再起動すると、設定は有効になります。オートローダーが再起動された後で、ブラウザ画面が正しく表示されない場合は、**[更新]**をクリックしてください。

注: DHCPサーバにより割り当てられたIPアドレスが使用されている場合は、現在のIPアドレスをブラウザの[アドレス]フィールドに入力して、**[移動]**をクリックしてください。現在のIPアドレスは、コントロールパネルの[Network]メニューの[IP Address]で調べることができます。

[SCSI ID]

[SCSI ID]では、オートローダーおよびAITドライブのSCSI IDとSCSIパリティを設定できます。設定した後は、オートローダーを再起動しなければなりません。

重要: SCSIバス上の2台のデバイスが同じSCSI IDを使用することはできません。オートローダーは2つのSCSI IDを使用します。それらのSCSI IDは同じであってはならず、他のデバイスがそれらのIDを使用することもできません。

1. オートローダーの管理メニューで、[System Configuration]をクリックし、次に[SCSI ID]をクリックします。管理メニューの[System Configuration]の下にある[SCSI ID]を直接クリックすることも可能です。

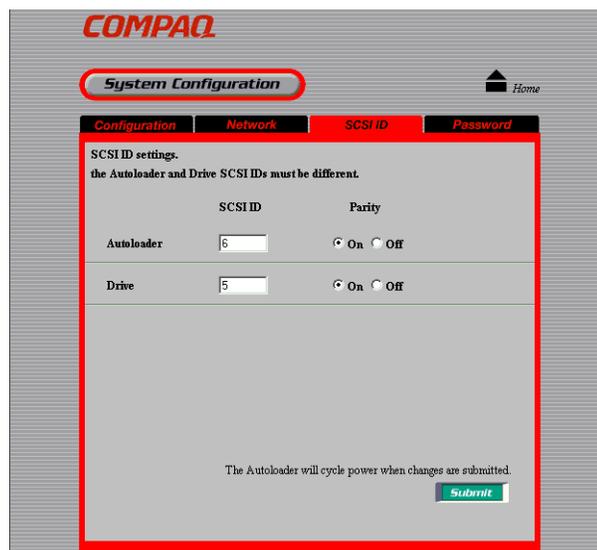


図5-7: [SCSI ID]ページ

2. 次の項目を設定します。
 - [AutoLoader] - 必要に応じて、オートローダーのSCSI IDを変更し、SCSIパリティを有効にします。
 - [Drive] - 必要に応じて、ドライブのSCSI IDを変更し、SCSIパリティを有効にします。
3. [Submit]をクリックします。
4. [Reboot now?]が表示されたら、[OK]をクリックします。

オートローダーを再起動すると、設定は有効になります。オートローダーが再起動された後で、ブラウザ画面が正しく表示されない場合は、[更新]をクリックしてください。

注: 新しいSCSI情報が認識されるようにするには、ホスト コンピュータを再起動する必要がある場合があります。

[Password]

パスワードは、オートローダーのセキュリティのために重要です。オートローダーの管理メニューにアクセスする場合、必ず、パスワードを変更してから設定を行ってください。

重要: パスワードを忘れた場合は、「D メンテナンスおよびトラブルシューティング」の、パスワードのリセットについての項を参照してください。

注: ここで取り扱うパスワードは、オートローダーのフロントパネルからアクセスできるパスワードと同じです。どちらの位置から変更することも可能です。

[Network Password]および[User Name]は、どちらの位置からも変更できるわけではありません。

1. オートローダーの管理メニューで、[System Configuration]をクリックし、次に[Password]をクリックします。管理メニューの[System Configuration]の下にある[Password]を直接クリックすることも可能です。

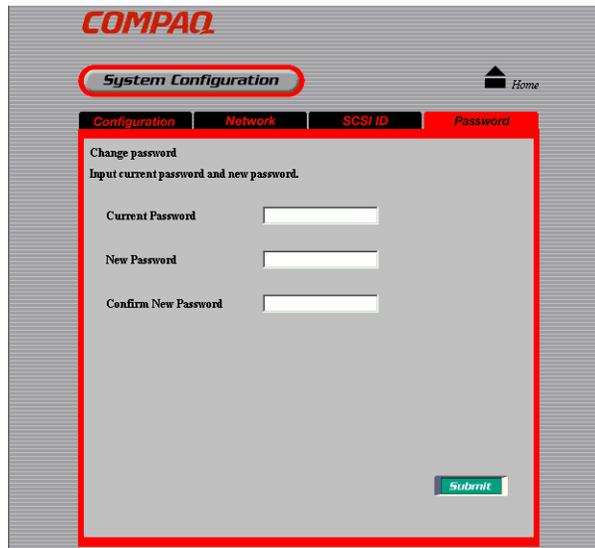


図5-8: [Password]ページ

2. [Current Password]ボックスに、現在のパスワードを入力します。
初めてパスワードを設定する場合は、CPQ-35ALと入力します。
3. [New Password]ボックスに、新しいパスワードを、最大8文字の英数字と記号を使用して入力します。
注: オートローダーのパスワードは、大文字と小文字を区別します。
4. 次の[Confirm New Password]ボックスに、同じパスワードを再び入力します。
5. [Submit]をクリックします。

パスワードが正常に変更されたことを示すメッセージが表示されます。

注: パスワードのために設定できる最大文字数は8文字です。8文字よりも多く入力することはできません。

[Maintenance]メニュー

[Maintenance]メニューでは、オートローダーの状態の確認、およびこのオートローダーのファームウェアのアップデートが可能です。

注: [Maintenance]メニューにアクセスするたびに、パスワードの入力が要求されます。

[Maintenance]メニューには、次の項目があります。

- **[Life Count]** - 特定の部品が動作した回数を表示します。
- **[Error Count]** - 特定の部品でエラーが発生した回数を表示します。
- **[Sensor]** - 個々のセンサ、DIPスイッチ、およびエンコーダ値についての情報を表示します。
- **[History]** - ログを表示します。
- **[Diagnostic]** - オートローダーが正常に動作しているかどうかを確認します。
- **[Firmware download]** - オートローダーのロボット機構の新しいファームウェアをダウンロードできます。

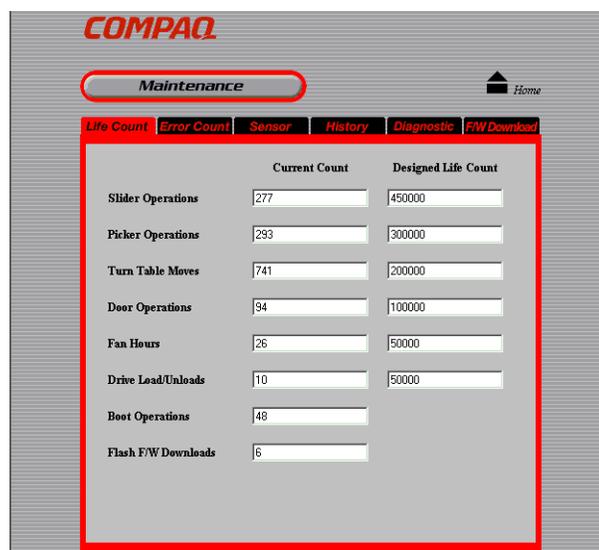
重要: AITドライブのファームウェアは、管理メニューを使用してダウンロードすることはできません。AITドライブのファームウェアは、テープストレージ管理コンソール(TSMC)またはファームウェアテープを使用してダウンロードできます。

[Life Count]

[Life Count]には、特定の部品が動作した回数が表示されます。

1. オートローダーの管理メニューで、[Maintenance]をクリックし、次に[Life Count]をクリックします。管理メニューの[Maintenance]の上にある[Life Count]を直接クリックすることも可能です。
2. パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

注: [Maintenance]メニューにアクセスするたびに、パスワードの入力が要求されます。



	Current Count	Designed Life Count
Slider Operations	277	450000
Picker Operations	293	300000
Turn Table Moves	741	200000
Door Operations	94	100000
Fan Hours	26	50000
Drive Load/Unloads	10	50000
Boot Operations	48	
Flash F/W Downloads	6	

図5-9: [Life Count]ページ

[Life Count]ページには、次の特定の部品が動作した回数が表示されます。

- スライダ
- ピッカー
- ターンテーブル
- カセットアクセスドア
- ファン動作時間
- ドライブ
- 起動
- フラッシュ

[Error Count]

[Error Count]には、特定の部品でエラーが発生した回数が表示されます。

1. オートローダーの管理メニューで、[Maintenance]をクリックし、次に[Error Count]をクリックします。管理メニューの[Maintenance]の上にある[Error Count]を直接クリックすることも可能です。
2. パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

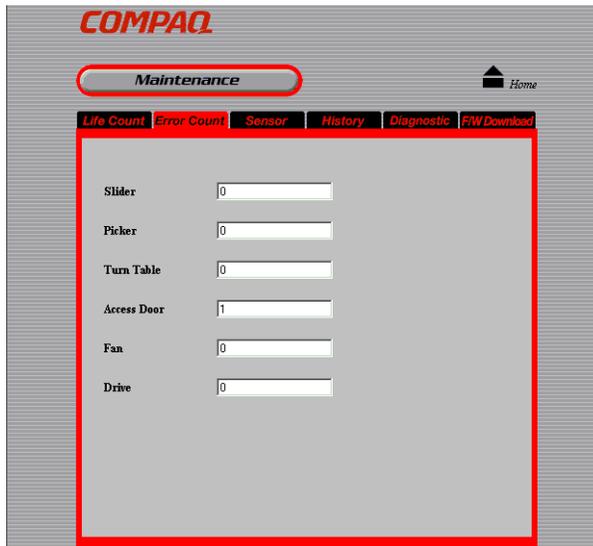


図5-10: [Error Count]ページ

[Error Count]ページには、次の特定の部品でエラーが発生した回数が表示されます。

- スライダ
- ピッカー
- ターンテーブル (回転トレイ)
- カセットアクセスドア
- ファン
- ドライブ

[Sensor]

[Sensor]には、個々のセンサ、内蔵DIPスイッチ、およびエンコーダ値に関する情報が表示されます。

重要: [Sensor]ページに表示されるスイッチ設定は、内蔵スイッチの設定であり、オートローダーの底面にあるスイッチの設定ではありません。

1. オートローダーの管理メニューで、[Maintenance]をクリックし、次に[Sensor]をクリックします。管理メニューの[Maintenance]の上にある[Sensor]を直接クリックすることも可能です。
2. パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

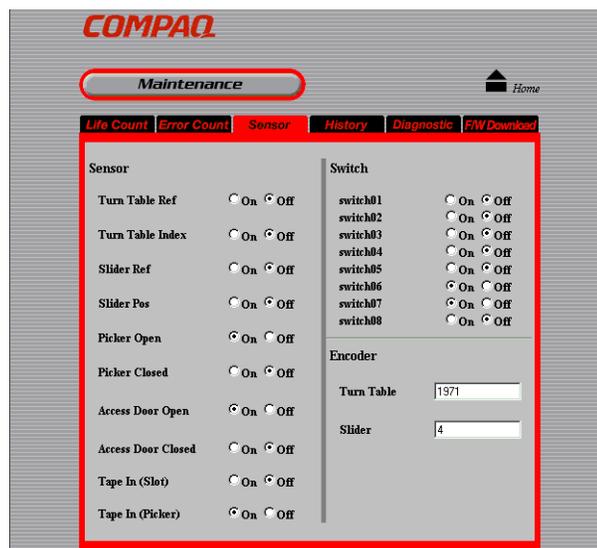


図5-11: [Sensor]ページ

[Sensor]ページには、次の特定の部品に関する情報が表示されます。

- センサ
 - [Turn Table Ref]
 - [Turn Table Index]
 - [Slider Ref]
 - [Slider Pos]
 - [Picker Open]
 - [Picker Close]
 - [Cassette access door Open]
 - [Cassette access door Close]
 - [Tape In (Slot)]
 - [Tape In (Picker)]

- スイッチ
 - [switch01]
 - [switch02]
 - [switch03]
 - [switch04]
 - [switch05]
 - [switch06]
 - [switch07]
 - [switch08]
- エンコーダ
 - [Turn Table (carousel)]
 - [Slider]

[History]

[History]では、次のログを表示できます。

- メカニカル ログ
 - SCSIログ
 - エラー ログ
1. オートローダーの管理メニューで、[Maintenance]をクリックし、次に[History]をクリックします。管理メニューの[Maintenance]の上にある[History]を直接クリックすることも可能です。
 2. パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

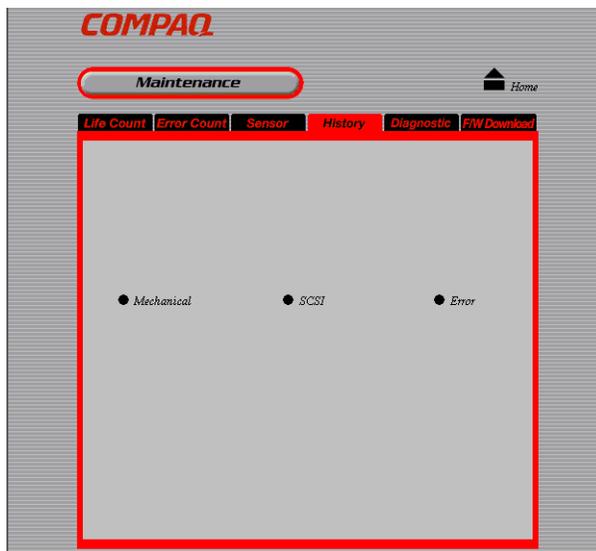


図5-12: [History]ページ

3. 表示したいログをクリックします。

- [Mechanical] - メカニカル ログを表示します。このログには、最大128エントリが表示されます。
- [SCSI] - SCSIログを表示します。このログには、最大128エントリが表示されます。
- [Error] - エラー ログを表示します。このログには、最大32エントリが表示されます。

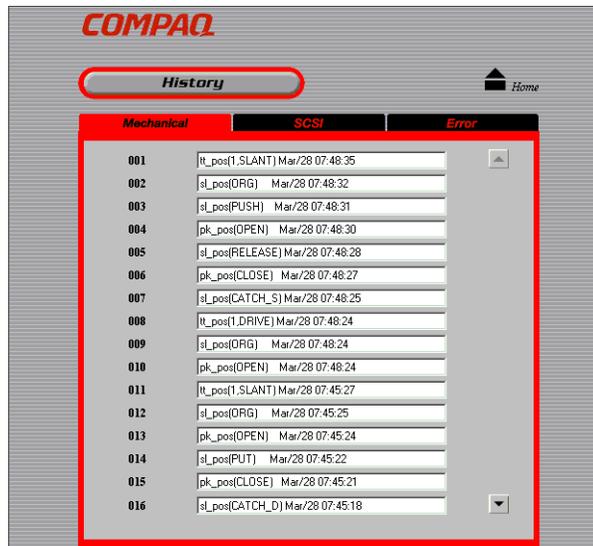


図5-13: [Mechanical]ページの例

1. ▼をクリックすると、次のログが表示され、▲をクリックすると、前のログが表示されます。
2. [History]をクリックすると、[History]ページに戻ります。

[Diagnostic]

[Diagnostic]では、オートローダーが正常に動作していることを確認できます。

1. オートローダーの管理メニューで、[Maintenance]をクリックし、次に[Diagnostic]をクリックします。管理メニューの[Maintenance]の上にある[Diagnostic]を直接クリックすることも可能です。
2. パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

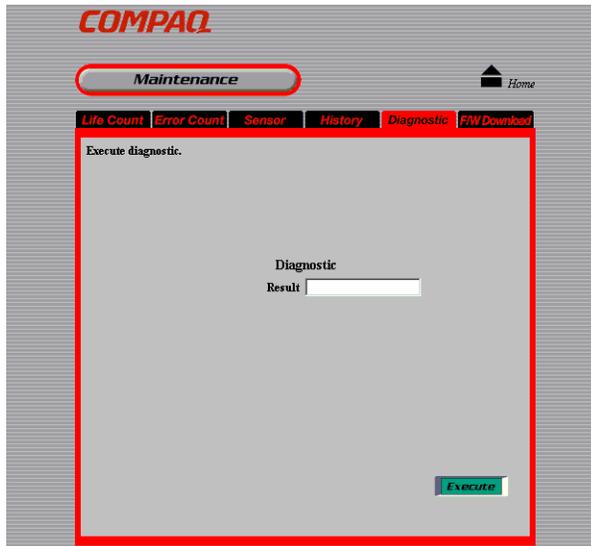


図5-14: [Diagnostic]ページ

3. [Execute]をクリックします。

ソフトウェアは、診断テストを開始します。完了したら、[Result]ボックスに診断の結果が表示されます。

[Firmware Download]

[Firmware Download]では、オートローダーのファームウェアをダウンロードできます。

注: ファームウェアのダウンロードについては、コンパクのサービス窓口にお問い合わせください。

1. オートローダーの管理メニューで、[Maintenance]をクリックし、次に[Firmware Download]をクリックします。管理メニューの[Maintenance]の上にある[Firmware Download]を直接クリックすることも可能です。
2. パスワードを入力して、[OK]をクリックします。
3. ネットワーク パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

注: この画面が表示されるのは、ブラウザを起動して、オートローダーの管理メニューにアクセスした場合のみです。



図5-15: [Firmware Download]ページ

4. [File Name]ボックスに、ファームウェアのファイル名（フルパスを含む）を入力します。
注: [Browse]ボタンをクリックして、ファイルを指定することもできます。
5. [Execute]をクリックします。



図5-16: 確認画面

6. [OK]をクリックします。
ファームウェアのダウンロードが開始されます。ダウンロードが終了したら、オートローダーは自動的に再起動されます。
注: この手順でダウンロードされたファームウェアは、オートローダーのロボット機構のみを制御します。AITドライブのファームウェアは含まれていません。ドライブのファームウェアのダウンロードは、テープストレージ管理コンソール (TSMC) を使用してSCSIバスを介して、またはファームウェア テープを使用してドライブを介して実行できます。
7. オートローダーが再起動されたら、ブラウザの[更新]をクリックし、オートローダーの管理メニューが正常に表示されることを確認します。
オートローダーの管理メニューが正常に表示されたら、ダウンロードは完了です。
注: ファームウェアのアップデート中は、オートローダーの電源を切らないでください。



注意: ファームウェアのアップデート中は、オートローダーの管理メニューは操作できません。

[Information]メニュー

[Information]メニューでは、オートローダー、AITドライブ、およびカセットに関する情報を表示できます。

[Information]メニューには、次の項目があります。

- **[Information]** - オートローダーおよびAITドライブに関連する情報を表示します。
- **[Inventory]** - カセットに関連する情報を表示します。

[Information]

[Information]には、オートローダーおよびAITドライブに関連する次の情報が表示されます。

- ベンダID
- 製品ID
- リビジョン
- シリアル番号

注: オートローダーおよびAITドライブに関連する情報は、コントロールパネルの[Information]メニューでも表示できます。

オートローダーの管理メニューで、**[Information]**をクリックし、次に**[Information]**をクリックします。管理メニューの**[Information]**の上にある**[Information]**を直接クリックすることも可能です。



図5-17: [Information]ページ

[Inventory]

[Inventory]には、ロードされたカセットの位置が表示されます。

注: カセットの位置に関連する情報は、オートローダーのコントロールパネルのステータス画面にも表示されます。オートローダーの管理メニューで、[Information]をクリックし、次に[Inventory]をクリックします。管理メニューの[Information]の上にある[Inventory]を直接クリックすることも可能です。

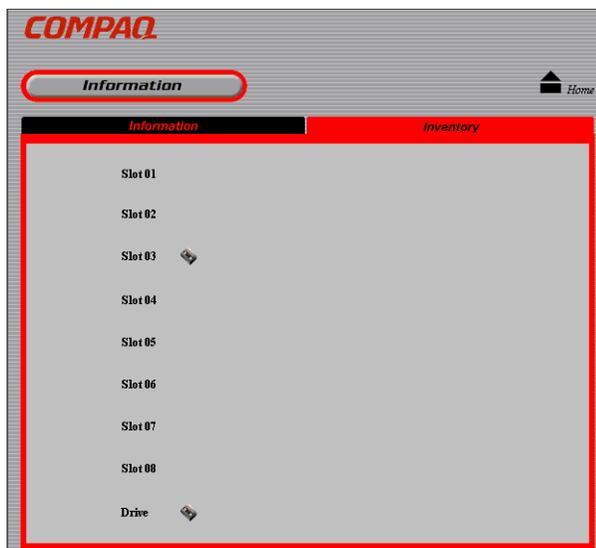


図5-18: [Inventory]ページ

カセットが入っているスロットおよびAITドライブについては、が表示されます。

規定に関するご注意

ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読み下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

各国別勧告

以下に日本以外の国や地域での規定を掲載します。

Federal Communications Commission Notice

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established Radio Frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (that is, personal computers). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

The rating label on the device shows which class (A or B) the equipment falls into. Class B devices have an FCC logo or FCC ID on the label. Class A devices do not have an FCC logo or FCC ID on the label. Once the class of the device is determined, refer to the following corresponding statement.

Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult Compaq technical support or an experienced radio or television technician for help.

Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by Compaq Computer Corporation may void the user's authority to operate the equipment.

Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

Declaration of Conformity for products marked with the FCC logo - United States only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding your product, contact:

Compaq Computer Corporation
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113
Houston, Texas 77269-2000

Or, call

1-800- 652-6672 (1-800-OK COMPAQ)

For questions regarding this FCC declaration, contact:

Compaq Computer Corporation
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101
Houston, Texas 77269-2000

Or, call

(281) 514-3333

To identify this product, refer to the Part, Series, or Model number found on the product.

Canadian Notice (Avis Canadien)

Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

European Union Notice



Products bearing the CE marking comply with the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community and if this product has telecommunication functionality, the R&TTE Directive (1999/5/EC).

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (in parentheses are the equivalent international standards and regulations):

- EN 55022 (CISPR 22) - Electromagnetic Interference
- EN55024 (IEC61000-4-2, 3, 4, 5, 6, 8, 11) - Electromagnetic Immunity
- EN61000-3-2 (IEC61000-3-2) - Power Line Harmonics
- EN61000-3-3 (IEC61000-3-3) - Power Line Flicker
- EN 60950 (IEC 60950) - Product Safety

Taiwanese Notice

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

静電気対策

システムをセットアップしたり、部品を取り扱う場合には、システムの損傷を防止するために守らなければならないことがあるので注意してください。人間の指など、導電体からの静電気放電によって、システムボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷して、耐用年数が短くなることがあります。

静電気による損傷を防止するには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごとアースされている面に置きます。
- ピン、リード線、回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、つねに自分の身体に対して適切なアースを行います。

アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうち1つ以上の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされているワークステーションまたはコンピュータ本体にアースバンドをつなぎます。アースバンドは柔軟な帯状のもので、アースコード内の抵抗は、 $1M \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アースバンドを肌に密着させてください。
- 立って作業する場合、かかとやつま先にアースバンドをつけます。導電性または静電気が伝わる恐れのある床の場合、両足にアースバンドをつけます。
- 作業用具は導電性のものを使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットがついた、携帯式の作業用具もあります。

上記のような、適切にアースを行うための器具がないときは、コンパック製品販売店またはコンパックのサービス窓口にお問い合わせください。

注: 静電気の詳細または製品のインストールの支援については、コンパック製品販売店またはコンパックのサービス窓口にお問い合わせください。

物理仕様

表C-1: 物理仕様

高さ	43mm
幅	430mm
長さ	660mm
重量 (メディアなし)	13.2kg

電源仕様

表C-2: 電源仕様

ライン電圧	100 ~ 240VAC、+10%/-10%
ライン周波数	50 ~ 60Hz
入力電流	0.5A

環境仕様

表C-3: 環境仕様

動作時温度	10 ~ 40
湿度	相対湿度20 ~ 80% (ただし結露しないこと)

外部接続

表C-4: 外部接続

SCSI	Wide Ultra2 LVD SCSI
Ethernet	10Base-T/100Base-TX (RJ-45)
RS232C	D-Sub、9ピン

メンテナンスおよびトラブルシューティング

この付録では、AIT 35GBオートローダーのメンテナンスおよびトラブルシューティングについて説明します。

AITドライブのクリーニング

AITドライブのクリーニングが必要な場合、LCDパネルに次のメッセージが表示されます。

```
Warning           12:34
Cleaning request
```

図D-1: [Warning cleaning request]

クリーニングカセット(別途ご購入ください)をAITドライブに挿入することにより、ドライブのクリーニングを実行してください。

クリーニングカセットの挿入

「4 カセットの管理」の「カセットの挿入」の項で説明したのと同じ手順を使用して、クリーニングカセットを挿入してください。クリーニングカセットを挿入する際に、スロット番号をメモしておいてください。

AITドライブへのクリーニングカセットの移動

クリーニングカセットがオートローダーにロードされ、初期化プロセスが終了したら、次の手順を使用して、クリーニングカセットをAITドライブに移動してください。

1. [CANCEL]を2回押してメニューに戻り、▲または▼を押して[Move Tape]を選択し、[ENTER]を押します。

```
Source           01
Destination      Drive
```

図D-2: [Move Tape]の表示

2. ▲または▼を使用してクリーニングカセットが置かれているスロットの番号を選択し、[ENTER]を押します。
3. [Drive]が点滅したら、[ENTER]を押します。

```
Source           01
Destination      Drive
[ENTER] to activate
```

図D-3: [ENTER]を押して移動を有効にする

4. **[ENTER]** to activate]が表示されたら、**[ENTER]**を押します。
クリーニング カセットがAITドライブに移動し、クリーニングが開始されます。**[Cleaning in process]**が表示されます。
5. クリーニングが完了したら、クリーニング カセットがオートローダーのスロットに戻され、表示はメイン メニューに戻ります。
6. **[Eject/Insert Tape]**メニューの**[From AutoLoader]**を使用して、クリーニング カセットを取り出します。
7. **[CANCEL]**を3回押して、ステータス ディスプレイに戻ります。
注: 読み取りまたは書き込みエラーが発生した場合は、クリーニング手順を繰り返してください。

トラブルシューティング

コンパックのサービス窓口につながる前に、以下の項目を確認してください。問題を解決できない場合は、コンパックのサービス窓口にお問い合わせください。

次の情報を準備してからお問い合わせください。

- テクニカル サポートの登録番号（登録済みの場合）
- 製品のシリアル番号
- 製品のモデル名および番号
- 該当するエラー メッセージ
- オペレーティングシステムのタイプとリビジョン レベル
- 詳細で具体的な質問

警告

AITドライブのクリーニングが必要な場合、LCDパネルに警告メッセージが表示されます。警告は、特定の部品が予測寿命に達し、寿命警告機能がオンにされている場合にも表示されます。



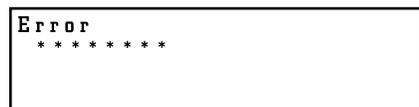
図D-4: 警告

警告メッセージとその解決策は、次のとおりです。

- **[Cleaning Request]** - AITドライブのクリーニングが必要です。AITドライブのクリーニングを実行してください。
- **[Threshold Condition Met]** - 特定の部品が、指定回数よりも多く動作しました。コンパックのサービス窓口にご連絡ください。
- **[Drive Information]** - AITドライブにエラーが発生しました。エラー コードが表示されます。コンパックのサービス窓口にご連絡ください。
- **[FanX trouble]** - ファンXに異常が発生しました（ここで、Xはファンの番号です）。コンパックのサービス窓口にご連絡ください。すべてのファンでエラーが発生した場合は、**[Error]**エラー コードが表示されます。

エラー コード

オートローダーでエラーが発生すると、LCDパネルにエラー コードが表示されます。



図D-5: エラー表示

エラー コード83

テープが壊れています。テープを取り出してください。また、オートローダーの電源を切って入れなおすことはしないでください。

その他のすべてのエラー コード

コンパクトのサービス窓口にご連絡ください。

オートローダーが正しく動作しない

重要: オートローダーの電源を切り、10秒間待ってから再起動してください。

- 輸送用ネジが動作用位置に入っていることを確認してください。
- 電源スイッチがオンになっていることを確認してください。
- 電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- カセット アクセス ドアが完全に閉じられていることを確認してください。
- ターミネータが正しく接続されていることを確認してください。
- SCSIケーブルが、オートローダーからホスト コンピュータに正しく接続されていることを確認してください。
- ホスト コンピュータの電源が入っていることを確認してください。
- オートローダーのLCDパネルにエラー コードが表示されていないか確認してください。
- カセット アクセス ドアがしっかりと閉じられていることを確認してください。
- オートローダーの診断テストを実行してください。

オートローダーとホスト コンピュータが通信を行わない

次を確認してください。

- オートローダー、AITドライブ、およびホスト コンピュータのSCSI IDが固有の値になっている。SCSIバス上で重複したSCSI IDを使用することはできません。
- SCSIケーブルが正しく接続されている。
- SCSIアダプタ カードがコンピュータに正しくインストールされている。
- 接続されているすべてのSCSIデバイスが、LVDデバイスである。オートローダーはLVDデバイスです。オートローダーには、HDVデバイスを接続しないでください。
- SCSIバス上のすべてのデバイスが、Wide SCSIデバイスである。オートローダーはWide SCSIデバイスです。SCSIバス上のすべてのデバイスは、Wide SCSIデバイスでなければなりません。

注: Wide-Narrowアダプタを使用することも可能です。

- ホスト コンピュータと、SCSIバスの端のデバイスを接続する、すべてのSCSIケーブル（内部および外部）の合計の長さが、12m未満になっている。
- SCSIバスが正しく終端されている。
- オートローダーがアプリケーションソフトウェアをサポートしている。オートローダーおよびサポートされているオペレーティング システムで使用できるアプリケーション ソフトウェアのガイダンスについては、コンパクト製品販売店にお問い合わせください。
- アプリケーションソフトウェアが正しくインストールされ、ホスト コンピュータ上で正しくセットアップされている。
- オートローダーの電源を入れた後、10秒経過する前にホスト コンピュータの電源を入れた。オートローダーの電源を入れた後で、ホスト コンピュータの電源を入れるのが早すぎた場合、ホスト コンピュータはSCSIデバイスを検出しないことがあります。DHCPを使用する場合は、30秒以上待ってください。

アプリケーションおよびオートローダーが正しく動作しているにもかかわらず、データの書き込みまたは読み取りができない

- カセットの書き込み禁止タブが、書き込み可能にセットされていることを確認してください。
- Compaq AIT1カセットのみを使用してください。
- カセットが非常に長い間、または非常に頻繁に使用された場合は、カセットを交換してください。
- カセットが損傷していないか確認してください。
- AITドライブのクリーニングを実行してください。

カセットを取り出すことができない

「4 カセットの管理」の「カセットの取り出し」の指示に従ってください。

オートローダーからのテープの取り出しの問題を解決できない場合は、以下の手順に従ってください。

フロント パネルを使用して、[Eject All Tapes]を選択します。このコマンドにより、[Move Tape]メニューでは不可能な場合がある、ドライブからのテープの取り出しが強制的に実行されます。

他の方法でテープを取り出すことができない場合は、以下の手順に従ってください。

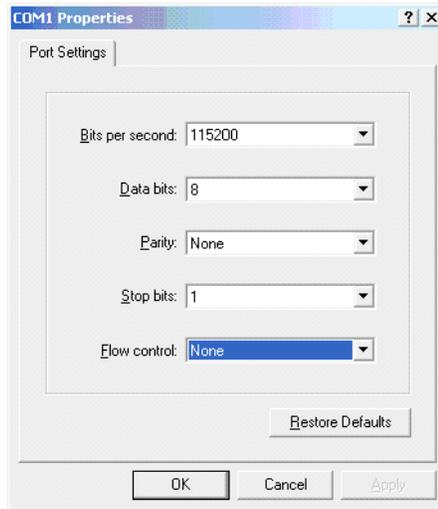
1. オートローダーの電源を切ります。
2. アクセス ドアを手動でスライドさせて開けます。
重要: ドアをスライドさせて開けるには、電源を切っていないと開けられません。
3. カセットを取り出します。
4. 回転トレイを回転させて、他のカセットを取り出します。

注: 回転トレイを回転させる場合、一定の圧力をかけるよりも、軽くたたいた方が、回転トレイの移動の開始が容易になります。テープがすべて取り出されるまで、回転トレイの回転とテープの取り出しを続けてください。

パスワードを忘れた場合

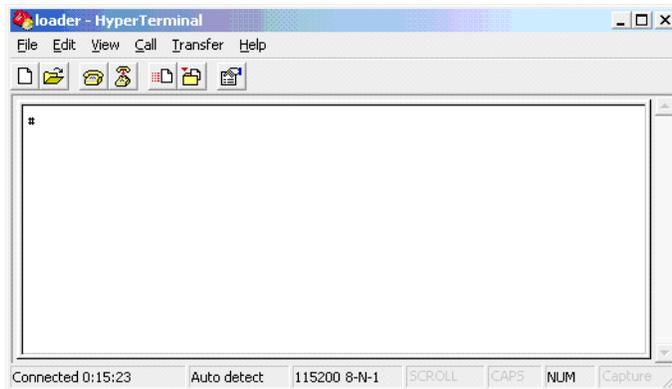
Web 管理パスワードを忘れた場合、パスワードを必要とする設定および操作を行うことができなくなります。パスワードをCPQ-35ALにリセットするには、以下の手順を使用してください。

1. オートローダーのシリアルコネクタに、ヌルモデムケーブルを取り付けます。
2. 次に示すように、ハイパーターミナル接続設定を行います。



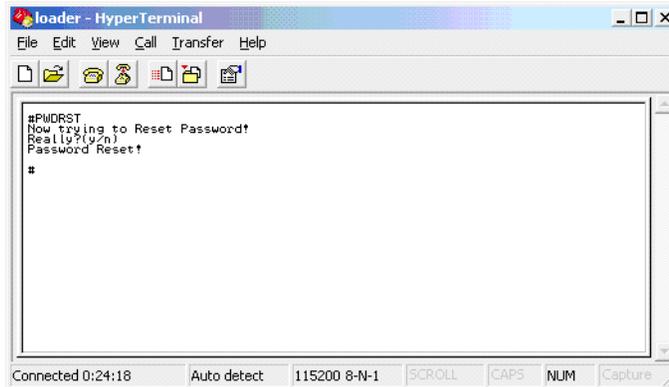
図D-6: ハイパーターミナル接続設定

3. ハイパーターミナル接続が確立されたら、**Enter**キーを押すと、シャープ記号が次のように表示されます。



図D-7: ハイパーターミナル表示

4. PWDRSTとタイプして、Enterキーを押します。次に示すように、yをタイプして、パスワードのリセットを確認します。



図D-8: パスワードのリセット

5. オートローダーのフロントパネルを使用して、オートローダーをシャットダウンします。
重要: NVRAMでパスワードが確実にリセットされるようにするために、シャットダウン手順は必ず実行してください。
6. オートローダーの電源を再び入れます。
重要: オートローダーの電源を切り、10秒間待ってから再起動してください。

索引

1

1人で安全に取り扱うことができる重量を超えていること、装置の記号 viii

A

AITドライブのクリーニング D-1

C

Cables A-2

Canadian Notice (Avis Canadien) A-3

Class A Equipment A-1、A-3

Class B Equipment A-2、A-3

Configuration 5-4

D

DHCP 3-10

Diagnostic 5-14

Domain 3-10

E

Eject From Drive 4-3

Error Count 5-10

Ethernet C-1

European Union Notice A-3

F

Federal Communications Commission Notice A-1

Firmware Download 5-14

G

Gateway 3-11

H

History 5-12

Host 3-10

I

[Information]メニュー 5-16

Inventory 5-17

IPアドレス 3-10

J

JavaScript 5-1

L

LCDパネル 3-13

輝度 3-13

調節 3-13

Life Count 5-9

M

MACアドレス 3-11

[Maintenance]メニュー 5-9

Modifications A-2

N

Network 5-5

[Network]メニュー 3-9

P

Password 5-8

R

RS232C C-1

S

SCSI C-1

ID 5-7

ケーブル 1-3

ケーブルの長さ 1-4

パリティ、デフォルト設定 3-8

SCSIバスについて 1-4

終端 1-4
Sensor 5-11
[System Configuration]メニュー 5-3

T

Taiwanese Notice A-4

W

Webサイト アドレス、表記上の規則 vii

あ

アースの方法 B-2
アンロードの継続 3-13
有効 3-14

い

移動先 4-4
移動元 4-4
インストール
確認 2-2
インストールと構成 2-1

え

エラー コード D-3

お

オートロード モード 3-14
有効 3-14
オートローダー
正面 1-2
背面 1-2
オートローダーの管理メニュー 5-1

か

開梱 2-1
外部接続 C-1
概要およびセットアップ 3-1
書き込みまたは読み取り D-4
カセット
移動 4-4
準備 4-1
挿入 4-2
取り出し 4-3、D-4
保管 4-1
ボリューム 1-1
各国別勧告 A-1

環境仕様 C-1
感電、装置の記号 viii
管理メニュー 5-2
管理メニューの使用 5-1

き

キー、表記上の規則 vii
記号
装置 viii
本文中 vii
規定に関するご注意 A-1
機能 1-1

く

クリーニングが必要な場合 D-1

け

警告
1人で安全に取り扱うことができる重量を
超えていること、装置の記号 viii
感電、装置の記号 viii
装置の電源が複数あること、装置の記号 viii
装置の表面または内部部品の温度、装置の
記号 viii
ネットワーク インタフェース接続、装置の
記号 viii
本文中の記号 vii
ラックに関する注意 ix

こ

コマンド名、表記上の規則 vii
コントロール パネル 3-1
コントロール ボタン 3-1
コンパックのWebサイト ix

さ

サポートされるオペレーティングシステム 1-1

し

シーケンシャル モード 3-13
有効 3-13
システム応答、表記上の規則 vii
湿度 C-1
重要、本文中の記号 vii
重量 C-1
仕様 C-1

情報

- AITドライブ 3-15
- オートローダー 3-15

情報の表示

- オートローダー 3-15

正面図 1-2

す

ステータス ディスプレイ

- 表示 3-3
- メッセージ 3-3

ストレージ容量 1-1

スロット番号 3-4

せ

静電気対策 B-1

接続

- デジジー チェーン 2-9
- 電源ケーブル 2-8
- ネットワーク 3-9
- ネットワーク ケーブル 3-11

そ

装置の記号 viii

装置の電源が複数あること、装置の記号 viii

装置の表面または内部部品の温度、装置の記号 viii

挿入

- Multiple Mode 4-2
- Single Mode 4-2

た

ターミネータの電源 1-3

ダイアログ ボックス名、表記上の規則 vii

ダウンロード 5-14

高さ C-1

ち

注意事項 5-1

注意、本文中の記号 vii

注、本文中の記号 vii

つ

通信 D-3

て

デジジー チェーン 2-9

電源

仕様 C-1

電源スイッチ 3-6

と

動作時温度 C-1

トラブルシューティング D-2

取り出し

- Multiple Mode 4-3
- Single Mode 4-3

な

長さ C-1

ね

ネットワーク 3-9

ケーブル 3-11

接続 3-9

ネットワーク インタフェース接続、装置の記号 viii

は

はじめに 1-1

パスワード 3-12

設定 3-12

変更 3-12

忘れた場合 D-5

幅 C-1

ひ

表記上の規則

Webサイト アドレス vii

キー vii

コマンド名 vii

システム応答 vii

ダイアログ ボックス名 vii

ファイル名 vii

変数 vii

ボタン名 vii

メニュー アイテム vii

ユーザ入力 vii

ふ

ファームウェア 5-14

ファイル名、表記上の規則 vii
フォント サイズ 5-1
物理仕様 C-1
ブラウザ
 サポート 1-1

へ

変数、表記上の規則 vii

ほ

ボタン
 CANCEL 3-2
 ENTER 3-2
 MENU 3-1
 ボタン、 ボタン 3-1
ボタン名、表記上の規則 vii
本文中の記号 vii

め

メニュー
 アイテム、表記上の規則 vii
メニュー項目 5-3
メンテナンスおよびトラブルシューティング D-1

も

[戻る]ボタン 5-1

ゆ

ユーザ設定のフォント 5-1
ユーザ入力、表記上の規則 vii

よ

要件
 ケーブル 1-3
 ターミネータ 1-3

ら

ライン周波数 C-1
ライン電圧 C-1
ラックに関する注意、警告 ix